

法政大学講義録

田中, 遜 / 秋山, 雅之介 / 山崎, 覺次郎 / 中村, 進午

(出版者 / Publisher)

法政大学

(巻 / Volume)

1-26

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

51

(発行年 / Year)

1904-06-21



（明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可）
每月十四日三百五十八日十一月十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行

三十七年度

明治三十七年六月廿一日發行

第一學年ノ二十六

法政大學講義錄

第八拾壹號



法政大學發行

第一學年第二十六號目次

國際公法(平時) (自一八五) (完)

法學博士 中村進午

表紙及び目次 八頁

國際公法(戰時) (自二八九)

法學士 秋山雅之介

經濟學 (自二四二)

法學士 山崎覺次郎

羅馬法 (自一八四)

法學士 田中遜

雜報 ○所有ノ名義ト共有者ノ權利○教唆ノ教唆○敵軍ノ犯則

(誤正 國際公法平時) 一五七頁七行及ヒ九行官廳(二官廳ノ誤)

090
1904
1-1-26

ス平和的交通ニ關スル條約例ハ通商條約犯罪人引渡條約郵便電信ニ關スル條約ノ如キ即チ是ナリ其他ノ條約ハ戰爭ノ開始スルニ拘ハラス獨リ效力ヲ消滅セシメタルノミナラス尙ホ依然トシテ實行セラルヘキモノナリ戰爭ニ關シテ締結シタル條約例ヘハ赤十字條約巴里宣言陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約ノ如キ皆是ナリ戰爭ノ繼續中ニ結ビタル條約モ亦此中ニ屬ス例ヘハ休戰條約停廢交換條約交戰國ノ一部分ヲ中立ト爲スヘキ條約降服條約ノ如シ

第七節 最惠國條款

最惠國條款トハ條約締結國ノ一方カ條約締結國他方ニ對シテ一般的ニ若クハ或特別ノ關係ニ付キ現在又ハ將來ニ於テ最モ恩惠ヲ與フル國ト同一ノ待遇ヲ爲ス(シト)定メタル條款ナリ故ニ最惠國條款ハ恩惠ノミニ及フモノニシテ惡キ待遇ニ均霑スルモノニ非ズ最惠國條款ニ因リテ均霑スヘキ利益ハ唯テ條約ニ因リテ與ヘラレタル利益ニミナラス事實上與ヘラレタル利益ニモ及フモノナリ

國際公法(平時) 本論 條約 最惠國條款

最惠國條款ノ性質ハ之ニ依リテ受クヘキ利益カ條約締結ノ當時ニ於テ極メテ曖昧ニシテ實際ノ效力ヲ生スルヤ否ヤ甚ク不明ナルノ點ニ在リ而シテ最惠國條款ノ不利ナリトシテ指摘セラルルコトハ實ニ其效力ノ生スルコトカ不確ナリト云フニ止マラス尙ホ或國家カ自國ト密接ノ關係ヲ有スル他ノ國家ニ特別ノ利益恩典ヲ與フルコトヲ得スト云フニ在リ以上二箇ノ攻擊ハ最惠國條款ニ對シテ當然與フヘキモノナレトモ更ニ最惠國條款ノ利益ヲ舉クレハ國家カ他ノ或國家ニノミ私セスシテ世界ノ各國ニ同一ノ利益ヲ與ヘ之ニ由リテ各國商業ノ發達ヲ助ケ經濟上ノ利益ヲ與フルコト及ヒ自己ノ獨力ヲ以テ到底達スルコトヲ得難キ利益ヲ第三國ノ力ヲ藉リテ何等ノ困難モナク享有スルコトヲ得ルニ至ルノ點ニ在リ若シ最惠國條款ナシトモハ甲國ハ乙國ノミニ私シ乙國ハ丙國ノミニ私スルカ如キノ結果ヲ生シ國家ト國家トノ間ニ利害ノ衝突ヲ生シ之カ爲メニ國家ヲシテ爭鬭絶ユルナキニ至ラシムルノ弊害アルヘシ

最惠國條款ハ如何ナル條約ニモ加ヘラルヘキモノニ非ス例ヘハ同盟條約土地割讓條約ノ如キハ性質上最惠國條款ヲ加フヘカラサルモノナリ故ニ最惠國條款ハ該最惠國條款ヲ有スル條約ニ規定セル事項ニノミ及フモノナリ例ヘハ通商航海條約中ノ最惠國條款ハ通商航海全體ノ事ニ及ヘトモ郵便鐵道罪人引渡等ノ事ニ及ハサルカ如シ

最惠國條款ハ通常相互的ニ約定スルモノナレトモ文明ノ發達シタル國家ト發達セサル國家トノ間ニ締結シタル最惠國條款ハ片面的ナルモノ多シ我國ト外國トノ現行條約中ノ最惠國條款ハ相互的ナルレトモ舊條約中ノ最惠國條款ハ皆日本ニ不利益ナル片面的最惠國條款ナリ例ヘハ舊日英條約第二十三條ニ日本政府ヨリ向後外國ノ政府及臣民ニ許スヘキ殊點アルトキハ「ブ」ヲタニヤ「政府國民」ヘモ同様ノ免許アルヘシ」ト定ムルノミニシテ英國カ外國ニ殊點ヲ與ヘタル場合ニ日本カ英吉利ヨリ之ト同一ノ免許ヲ受クヘキノ規定ハ之ナカリシナリ之ニ反シテ現行ノ日英條約第十五條ノ規定日本條約第十四條ノ規定ノ如キハ總テ相互的最惠國條款ナリ

最惠國條款ニ又無條件ノ最惠國條款ト有條件ノ最惠國條款ト無條件トモ有條件トモ記載セサル最惠國條款トノ三種ヨリ日英條約第十五條ヲ如キハ第一種

款ハ該最惠國條款ヲ有スル條約ニ規定セル事項ニノミ及フモノナリ例ヘハ通商航海條約中ノ最惠國條款ハ通商航海全體ノ事ニ及ヘトモ郵便鐵道罪人引渡等ノ事ニ及ハサルカ如シ

最惠國條款ハ通常相互的ニ約定スルモノナレトモ文明ノ發達シタル國家ト發達セサル國家トノ間ニ締結シタル最惠國條款ハ片面的ナルモノ多シ我國ト外國トノ現行條約中ノ最惠國條款ハ相互的ナルレトモ舊條約中ノ最惠國條款ハ皆日本ニ不利益ナル片面的最惠國條款ナリ例ヘハ舊日英條約第二十三條ニ日本政府ヨリ向後外國ノ政府及臣民ニ許スヘキ殊點アルトキハ「ブ」ヲタニヤ「政府國民」ヘモ同様ノ免許アルヘシ」ト定ムルノミニシテ英國カ外國ニ殊點ヲ與ヘタル場合ニ日本カ英吉利ヨリ之ト同一ノ免許ヲ受クヘキノ規定ハ之ナカリシナリ之ニ反シテ現行ノ日英條約第十五條ノ規定日本條約第十四條ノ規定ノ如キハ總テ相互的最惠國條款ナリ

最惠國條款ニ又無條件ノ最惠國條款ト有條件ノ最惠國條款ト無條件トモ有條件トモ記載セサル最惠國條款トノ三種ヨリ日英條約第十五條ヲ如キハ第一種

ノモノニ屬シ日本條約第十四條ノ如キハ第二種ノモノニ屬シ舊日澳條約第二十條ノ如キハ第三種ノモノニ屬ス

第九章 國家間ノ爭議

國家間ノ爭議ニ武器ノ力ヲ用フルモノト然ラサルモノトノ二種アリ前者ヲ名ケテ戰爭ト謂フ戰爭ノ豫備ヲ爲サンカ爲メニ各國皆軍隊ノ組織ヲ設ケ常備軍ノ制度ハ今日ニ於テ何レノ國ニモ行ハル常備軍ノ設ナカリシ時代ニ於テモ戰爭ナキニ非サリシモ常備軍ハ戰爭ヲ開始スルニ最モ適當ナル準備ナリ常備軍ヲ置クノ目的ハ平和ヲ維持シ且敵國ノ攻撃ヲ受クルニ當リ自國人ノ生命身體財產ヲ保持センカ爲メニシテ外國ニ對シテ主動的ノ戰爭ヲ爲スノ豫備ニ非スト曰フ者アレトモ是レ唯常備軍ヲ消極的ニ觀察シタルニ過キス常備軍ヲ積極的ニ觀察スルトキハ當然外國ヲ攻撃スルノ豫備ナリト謂ハサルヘカラス常備軍ノ制度カ不生産的ニシテ國家ノ不利ナルコトハ論ヲ埃タス然レトモ若シ常備軍ヲ置カス又戰爭ヲ爲スノ決心ナキトキハ國家ハ到底外國ノ攻撃ニ對シテ

自國ヲ維持スルコト能ハサルヘシ
戰爭ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ開始スルコトヲ許スヘカラストノ學說ノ論據ニ種種アリ其重ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ
第一 戰爭ハ最大ノ惡事ナリ何トナレハ人ノ生命ヲ絶ワコトヲ目的トスルヲ以テナリ然ルニ實際上一般ニ戰爭ヲ必要ナリトスルハ戰爭ト稱スル一種ノ惡毒ニ慣レタルカ故ナリ
第二 戰爭ハ一方ニ於テ人ノ生命身體財產ヲ安固ニスルコトヲ目的トスレトモ他方ニ於テハ武裝者其レ自身ヲ殺スノ大罪惡ヲ犯スモノナリ
第三 戰爭ヲ以テ爭議ヲ決セントスルハ終局ヲ暴力ノ勝ニ委スルモノナリ何トナレハ正義ヲ守レルノ國家必ズシモ勝利ヲ得ルモノニ非ズ不正ヲ營ムノ國家必ズシモ敗倒スルモノニ非ザレハナリ
第四 戰爭ノ目的ハ國家ノ自由獨立ヲ維持スルニ在リ然レトモ戰爭以外ニ國家ノ自由獨立ヲ維持スルノ方法アラハ宜シク之ニ信賴シテ其方法ニ從フヘキ

戰爭ニ賛成ノ意ヲ表スル説ノ重ナル根據ヲ舉クレハ左ノ如シ
第一 相爭フハ人ノ性ナリ蓋シ箇人ノ間ニハ或事項ニ付テハ親密ノ關係アル
モ或事項ニ付テハ利害ノ衝突アルコトヲ免ルヘカラサレハナリ國家ハ人間ノ
集合ヨリ成リタルモノナルカ故ニ國家カ相戰フハ國家ノ天性ナリ

第二 戰爭ハ人ノ體力智力ヲ盛ナラシメ意氣ヲ振ハシ愛國心ヲ發揮セシメ又
文明ノ發達ニ多大ノ裨益ヲ與フルモノナリ今日ニ至ルマテ精神上及ヒ物質上
ノ進歩カ此ノ如ク盛ナルニ至リタルハ悉ク戰爭ノ賜ナリト謂ハサルヘカラス
若シ戰爭ヲ絶對ニ廢止スルトキハ國家ハ其特性ヲ失ヒ國民ハ其元氣ヲ喪失ス
ヘシ各國其特性ヲ失ハハ世界全體ハ退歩スルノ外ナカルヘシ

第三 一時戰爭ヲ矯ムルモ之ヲ以テ永ク戰爭ヲ止ムルノ方法ト爲ラスシテ却
テ之カ爲メニ將來ニ於テ大ナル衝突ヲ來サシムルノ虞アリ永ク平和ヲ維持セ
ンカ爲メニハ却テ斷乎トシテ速ニ干戈ヲ交ワルニ如カス
戰爭ハ萬已ムヲ得サルモノナリト雖モ如何ナル學者ト雖モ成ルヘク戰爭ヲ少
カラシメシムコトヲ希望セサル者ナシ實際ニ於テ戰爭ハ文明ノ進歩スルニ伴ヒ

次第ニ其數ヲ減スルモノナリ是レ歷史上ノ事實ヲ證明スル所ニシテ何人ト雖
モ疑ヲ挾マサル所ナリ英國ノ「ローレンス」カ言フカ如ク今日ニ於ケル社會ノ三
大要素タル商業自由耶蘇教一般ノ宗教ハ平和ヲ維持スルニ力アルモノナリ獨
逸ノ「ライプニツツ」及ヒ「カント」ノ如キ英國ノ「ベンザム」「ミル」ノ如キハ皆永久平和
論者ナリ
戰爭ヲ避タルノ方法ニ付テハ種種ノ意見及ヒ種種ノ實例アリ例ヘハ「ベンザム」
ハ常備軍ヲ減縮スヘク又殖民地ヲ本國ヨリ獨立セシムヘシト曰ヒ「マリ」ノ「フス
キー」ハ公使ハ徒ニ國家間ノ紛爭ヲ醸スモノナルカ故ニ公使ノ接受ヲ廢スヘシ
ト曰ヒ「リバーン」ハ平和策ヲ講セシカ爲メニ此特別問題ヲ攻究スヘク國際的
大學ヲ造リ此學校ニ於テ戰爭ノ不當ナルコトヲ教授スヘシト曰ヒ「伊太利」ノ「ル
チー」ハ自國カ平和ヲ希フコトヲ示シシカ爲メニ自ラ進ミテ軍備ヲ縮少シ之
ヲ世界各國ニ示サハ必スヤ文明社會ノ同情ヲ得諾外國モ亦直チニ軍備ヲ縮少
スヘク隨テ次第ニ戰爭ヲ避タルコトヲ得ルニ至ルヘシト曰ヘリ
一國ヲ元首カ戰爭ヲ煽ラシムコトヲ主張シタルコトハ決シテ露國皇帝ニ始マリ

タルモノニ非ス第十六世紀ニ於テ佛蘭西ノ「アンリ」四世ハ胸中ニ萬國平和案ヲ描キ當時ノ數箇ノ國家ニ對シテ之ヲ實行センコトヲ協議シタレトモ功ヲ奏セザリキ第十九世紀ニ於テハ那破露三世亦之ト同一ノ企ヲ爲シタレトモ等シク功ヲ奏セザリキ露國皇帝ニコラス二世カ企テタル海牙ノ萬國平和會議モ亦此點ニ付テハ成功セザリキ昔佛戰爭ノ後兩國ノ嫉視益甚シク早晚再ヒ破裂ヲ見ルノ勢ヲ生シタリシカハ瑞西ニ萬國平和局(ソシエター、ド、ラベール)ナルモノ起リ且其部分的ノ會トシテ各國國會議員交涉會、各國新聞記者聯合會ヲ起シ種種ノ方法ニ依リテ萬國ヲ平和ナラシメント企テタリ今萬國平和局ヲ採ル所ノ主義ノ重ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 各國ノ國粹ヲ減少セシムルコト其方法トシテ新聞雜誌、宗教婦人、勞動者ノ力ヲ籍リ且教育ノ方針ヲ變シテ國民ヲシテ敵愾心ヲ起サシメサルコト

第二 軍兵備ノ縮少並ニ其撤去策ヲ講スルコト

第三 其議會ヲシテ軍備擴張費ニ協賛ヲ與ヘシメス更ニ進ミテ軍事費ニ協賛

ノヲ與ヘシメサルコト

第四 外國ノ軍事公債ノ募集ニ應ゼシメサルコト

第五 宣戰ノ權利ヲ議會ニ與フヘキコト

第六 仲裁裁判ノ方法ヲ完備ナラシムルコト

第七 各國ノ經濟的利害ノ共通ヲ益、多カラシムヘキコト

第八 人命ヲ損シメサルコトヲ確實ニスヘキコト

千八百八十二年英國ニ於テ仲裁及ヒ平和協會ナルモノ起リ又萬國ヲ平和ニ導カントスルノ方法ヲ攻究セリ

戰爭ヲ未發ニ防ク方法ヲ大別シテ二種ト爲ス第一爭議國雙方ノ力ニ依リテスルモノ第二、第三國ノ介入ヲ待ツモノ是ナリ

第一 爭議國雙方ノ間ニ於テ左ノ二種ト爲ス

(一) 暴力ヲ用ヒタル方法例ヘテ合意、棄權、屈服、最後通牒ノ如シ最後通牒トハ甲國カ乙國ニ對シ不當ノ行爲ヲ爲シタルトキ乙國カ此惡事ノ回復ヲ圖ラシカ爲メニ請求スル所ノ通牒ニシテ若シ此請求ニ應ゼサレハ戰爭ヲ開始スヘシト脅

追スルモノナリ。最後ノ通牒ニ其日限ヲ期シテ返答ヲ請求スルモノアリ。彼請求國カ空シク此日限ヲ經過シタルトキハ之ヲ以テ直チニ戰爭ヲ開始スルコトヲ得例ニ於テ千八百六十四年普滯西埃太利カ丁抹ニ對シテ爲シタルモノノ如キ千八百六十六年普滯西埃案ニ對シテ爲シタルモノノ如キ明治三十四年列國カ清國ニ對シテ爲シタルモノノ如キ皆是ナリ。

(二) 暴力ヲ用フル方法

(甲) 報復 報復トハ一國カ他國ニ向ヒテ損害ヲ加ヘタルトキ他國カ此損害ヲ排除セシムルノ目的ヲ以テ相手國家ニ對シテ同ノ損害ヲ加フルコトヲ謂フ例ヘキ甲國カ乙國ヨリノ輸入品ニ過重ノ稅ヲ課シタル場合ニ乙國モ亦甲國ヨリノ輸入品ニ過重ノ稅ヲ課スルカ如シ。

(乙) 報復 報復トハ甲國カ乙國ノ爲メニ權利ヲ毀害セラレタルトキカ復讐トシテ乙國ノ權利ヲ毀害スルコトヲ謂フ故ニ報復ト異ナル所ハ報復ハ權利ノ毀害ニ對スルモノニシテ報復ハ利益ヲ害セラレタル場合ニ於テ之ヲ用フルノ點ニ在リ。

報復ニハ積極的ノモノト消極的ノモノトノ二種アリ。積極的報復トハ爲スヘカラサル行爲ヲ爲スモノヲ謂ヒ消極的報復トハ爲ササルヘカラサル行爲ヲ爲ササルモノヲ謂フ。積極的報復ハ例ヘキ加害國ノ船舶ヲ差押(アシヤルゴ)ニシタルカ如キ。即チ是ナリ。消極的報復ハ例ヘキ電信郵便ノ接續ヲ絶ツカ如キ。又罪人ノ引渡ヲ爲ササルカ如キ。即チ是ナリ。報復ト限界カ那邊ニ在ルヤハ武器ノ力ヲ用ヒタルヤ否ヤニ依リテ決定スヘキモノナリ。權利ノ毀害ヲ受タルモ決シテ戰爭ヲ爲スコトナカルヘシト定メタル條約アリ例ヘキ千八百六十七年七月三十一日ノ英蘭條約第三十二條。又如シテ千八百八十五年ノ條約。然レ(丙) 平時ノ封港 平時封港ノ趣意ハ其地ノ交通ヲ妨ケ以テ其國家ノ主張ヲ曲ケンメントスルニ在リ。平時封港ハ相手ノ國家ヲ害スルノミニ止マラスシテ併セテ第三國ヲモ害スルモノナルカ故ニ之ヲ許スヘカラズトノ説アリト雖モ此説ハ實際ニ於テ行ハリス近クハ明治三十年ニ歐洲列強カ平時ニ於テタリトシテ高ヲ封鎖シタルノ例アリ。千八百六十六年佛蘭西カ臺灣ヲ封鎖シタルカ如キ。千八百六十二年英吉利カブラジルニ對シテ平時ノ封港ヲ行ヒタルカ如キ。其例尠

第二 遼アラス

(甲) 周旋ニ依リテ戰爭ヲ未發ニ防カントスルノ方法ナリ此場合ニ於ケル第三國ハ一ノ使者タルノ行爲ヲ爲スニ過キス自ラ進ミテ自己ノ意思ヲ其間ニ加フルコト能ハサルナリ周旋ヲ爲スヘク又周旋ヲ受クヘキノ義務カ條約ニ由リテ定メラレタルモノ尠カラズ千八百五十六年ノ條約千八百八十五年ノ伯林ニ於ケル「コンゴ」條約ノ如キ皆然リ

(乙) 居中調停 周旋ヲ爲ス者ハ唯書狀配達者ノ如ク自己ノ意思ヲ加フルコトナキモノナレトモ居中調停ヲ爲ス者ハ爭議國ノ紛争ニ關シ自己ノ意思ヲ加ヘ自ラ進ミテ爭議ノアル所ヲ見出シ之ヲ調和セシメントスルモノナリ居中調停ヲ爲ス國家ハ調停後該調停條約ニ當事國ト共ニ調印ヲ爲シ以テ責任ヲ分ツモノナレトモ周旋ニハ此事ナシ居中調停モ亦條約ノ規定ニ依リ紛争國ノ依頼ヲ受クルコトヲ必要トセザルモノナリ(國際紛争平和的處理條約第三條參照)

(丙) 仲裁裁判 仲裁裁判ノ場合ニ於テハ必ズ紛争國ノ依頼ヲ待タサルヘカラス依頼ナキ仲裁ハ仲裁ニ非スシテ干涉ナリ干涉トハ他國ノ意思ニ反シ其主權

の行動ヲ束縛スル行爲ナリ該行爲ハ主權の行動ノ内部ニ對スルモノタルト外部ニ對スルモノナルトヲ問フコトナシ學者多クハ國家カ自己ノ利益ヲ害セラレタル場合ニハ干涉ヲ爲スノ權利アルモノナリト主張スレトモ予ハ此說ニ同意ヲ表スルコトヲ得ス國家ハ如何ナル場合ニ於テモ外國ニ干涉スルノ權利ナキモノナリト信ス之ヲ歴史ニ徵スルニ第三國ノ干涉ヲ受ケタルコト屢之アリト雖モ之ヲ以テ干涉カ正常ナリトノ法律上ノ根據ト爲スコトヲ得ス人或ハ干涉ヲ受クル國家カ干涉ヲ依頼シタルトキ又ハ條約ニ由リテ干涉ヲ受クヘキコトヲ約定シタルトキハ其干涉ハ適法ナリト論スト雖モ此ノ如キハ國家ノ意思ニ反スル拘束ニ非サルカ故ニ之ヲ干涉ト稱スルコトヲ得ス

千八百五十八年非干涉ノ原則ニ關シテ有名ナル「モンロー」ノ原則ナルモノアリ「モンロー」ノ原則トハ千八百二十三年十二月二日北米合衆國ノ大統領「ゼイムス・モンロー」カ歐羅巴ニ成立シタル神聖同盟ノ對民主主義干涉政略ニ反對シテ爲シタル宣言ナリ

此宣言ノ要旨ハ亞米利加ニ關スルコトハ亞米利加ノ獨力ヲ以テ處分スヘキカ故ニ歐羅巴諸國カ歐羅巴亞米利加大陸ニ挾ムコトヲ許サスト云フニ在リ然レトモ歐羅巴諸國カ亞米利加ニ於テ有スル所ノ權利例ヘハ殖民地ニ關スル權利ノ如キニ付テハ歐羅巴諸國自ラ其權利ヲ主張スルコトヲ得ルモノナリ千八百五十年ノ(パナマ運河條約ニ關シテ此運河ニ關スルコトハ合衆國ノ監督ヲ爲スヘシト主張シタルカ如キハ)モンロー主義ノ發揮シタル最モ重ナルモノナリ然レトモ此「モンロー」ノ原則ナルモノハ決シテ國際法ノ理論ニ適シタルモノニ非ス唯モンロー其人カ實際上勢力ヲ有シタルヲ以テ其主張カ一般ニ重キヲ置カレタルニ過キス(一) 國家間ニ紛争アル場合ニ第三者ヲシテ其曲直ヲ裁判セシムルモノヲ謂フ故ニ(二) 仲裁裁判ニ付スルキ問題ハ法律關係ナラサルヘカラス(三) 仲裁裁判ノ判決ヲ下ス者ハ第三者ナラサルヘカラス該第三者ハ古ニ於テハ多ク羅馬法王ノミニナリシカ近世ニ於テハ國家ノ元首普通ノ裁判所一私人等仲裁裁判ヲ下シタルノ實例極メ多シ(三) 仲裁裁判ハ其判決ノ效力

ヲ嚴肅ニ裁判ヲ受ケタル國家ニ及ホスモノナリ(四) 仲裁裁判ニ付スヘキ事件仲裁裁判ヲ爲スヘキ場所ノ如キハ紛争國タルモノ隨意ニ之ヲ決定スルコトヲ得ヘシ此等ノ事項ヲ協定スル豫約ヲ名ケテ仲裁契約(コンプロミス)ト謂フ

明治三十三年ノ海牙ノ國際紛争平和的處理條約ニ依レハ常設仲裁裁判所ヲ和蘭ノ海牙ニ設ケ其裁判官ト爲ルヘキ人及ヒ裁判手續ニ關シテ大要左ノ如キ約定ヲ爲セリ委細ハ該條約第二十條以下ヲ參照スヘシ

- 一 仲裁裁判官タルヘキ人 條約締結國ハ國際法上ノ問題ニ付キ堪能ノ名アリ德望高ク且仲裁裁判官ノ任務ヲ受諾スルノ意思アル者四人以下ヲ指定シ仲裁裁判官トシテ名簿ニ記入ス紛争國雙方ハ右記入モラシタル裁判官ノ中ヨリ各二名ヲ選定シ右四名ノ裁判官ハ共同シテ一名ヲ上級裁判官ヲ選定ス上級裁判官ノ選定ニ付キ投票相半シタルトキハ紛争國雙方ノ協議ヲ以テ指定シタル第三國ニ其選定ヲ委託スヘタ若シ此指定ニ關スル協議成立セザルトキハ雙方ニ於テ各異ナリタル二國ヲ指定シ右兩國ヲ協議
- 二 以上上級裁判官ヲ選定スルモノトス事前書面ニ提出ス口頭協議イザ

二、仲裁裁判ノ手續ニ裁判手續ヲ別チテ準備書面ノ提出及ヒ口頭辯論ト爲
 ス口頭辯論ハ紛争國ノ承諾ヲ得タル場合ノ外之ヲ更敢セス判決ヲ下スニ
 付テハ評議ハ仲裁判官ノ合議ニ依リ多數決ヲ以テ之ヲ定ム宣告ハ之ヲ書
 面ニ認メ各裁判官之ニ記名ス正當ニ言渡サレタル仲裁判決ニ確定シテ
 上告ヲ許サズ但紛争國ハ仲裁契約中ニ再審請求ノ權利ヲ留保スルコトヲ
 得紛争國ハ各自國ニ係ル費用ヲ負擔シ且仲裁裁判所ノ費用ヲ等分ニ負擔
 スヘキモノトス

一、仲裁裁判官ノ任命ニ付テハ各國人民思ヘテ
 國家ニ對シテ義務ヲ負フ者トシテ之ヲ任命スルハ必要ナル
 國ハ請求ニ對シテ其裁判官イハレハ一人又ハ數人トシテ之ヲ任命スルコトヲ
 得第三十三條ノ規定ハ國際紛争ノ解決ニ對シテハ當然ノ義務トシテ之ヲ
 履行スル事トス蓋シテ此ノ義務ハ各國ハ自國ノ利益ヲ保護スル爲メ
 裁判官ニ對シテハ必要ナル程度ノ保護ヲ與ヘルコトヲ要スルモノトシテ
 國際公法(平時)終

(三十七年度講義録)

法學博士 中村進午講述

國際公法(平時)

法政大學發行

國際公法(平時)目次

緒言 第一節 領地主權ノ取得 八八
第二節 領地主權ノ喪失 八二

緒言

本論

第一章 國際法ノ主體

第一節 領地主權

第一節 領地主權ノ取得

第一節 領地主權ノ取得

第二節 領地主權ノ喪失

第二章 國家ノ種類

第一節 對人主權

第一節 對人主權

第一節 對人主權

第一節 對人主權

第一款 主權國本部主權國本部..... 五〇四

第二款 國本部主權國本部..... 五〇四

第一款 組織上の區別..... 五〇六

第二款 軍制上の區別..... 五〇六

第三款 複雜國..... 五〇九

第三章 國家の承認..... 六〇六

第四章 國家の權利義務の承繼..... 六〇六

第五章 國家の權利..... 七〇〇

甲 實質上の權利..... 七〇六

第一節 立法權..... 七〇六

第二節 司法權..... 七〇七

水編

第一款 治外法權..... 七〇七

第二款 領事裁判權..... 七〇七

第三款 犯罪人引渡..... 七〇八

國際公法(戰時)目次

第四款 混合裁判..... 九〇八

第三節 行政權..... 九〇八

第一款 宣戰時和ニ關スル行政權..... 九〇八

第二款 交通ニ關スル行政權..... 九〇九

第三款 衛生ニ關スル行政權..... 九〇九

第四款 財產ニ關スル國際的保護..... 九一〇

第五款 精神的利益の保護ニ關スル行政權..... 九一〇

第六款 貨幣ニ關スル行政權..... 九一〇

第七款 度量衡ニ關スル行政權..... 九一〇

第八款 地稅ニ關スル行政權..... 九一〇

乙 形式上の權利..... 九一〇

第六章 國家の義務..... 九一〇

第七章 外交機關及領事..... 九一〇

第一節 外交官..... 九一〇

第一款 總論.....一三八

第二款 外交官ノ目的.....一三九

第三款 公使ノ階級.....一四〇

第四款 公使授受ノ權利.....一四三

第五款 公使ノ就任.....一四六

第六款 公使ノ特權.....一四八

第七款 公使ノ終任.....一四九

第八款 一都ノ外交官.....一五一

第二節 領事.....一五二

第一款 領事ノ性質.....一五三

第二款 領事ノ職務.....一五三

第三款 領事ノ種類.....一五六

第四款 領事ノ特權.....一五八

第五款 領事ノ職務ノ終了.....一六〇

第八章 條約.....一六一

第一節 總論.....一六二

第二節 日本ト外國トノ間ノ條約ノ歴史.....一六四

第三節 條約ノ要素.....一七四

第四節 條約ノ效果.....一九九

第五節 條約ノ履行.....一八一

第六節 條約ノ消滅.....一八二

第七節 最惠國條款.....一八五

第九章 國家間ノ爭議.....一八八

國際公法(平時)目次終

國際公法年表目次

國際公法年表目次

第七章 國家間之爭端

第一節 最要國會議	一八八
第二節 締結之條約	一八五
第三節 締結之條約	一八二
第四節 締結之條約	一八一
第五節 締結之條約	一八一
第六節 締結之條約	一八一
第七節 締結之條約	一八一
第八節 締結之條約	一八一
第九節 締結之條約	一八一
第十節 締結之條約	一八一
第十一節 締結之條約	一八一
第十二節 締結之條約	一八一
第十三節 締結之條約	一八一
第十四節 締結之條約	一八一
第十五節 締結之條約	一八一
第十六節 締結之條約	一八一
第十七節 締結之條約	一八一
第十八節 締結之條約	一八一
第十九節 締結之條約	一八一
第二十節 締結之條約	一八一
第二十一節 締結之條約	一八一
第二十二節 締結之條約	一八一
第二十三節 締結之條約	一八一
第二十四節 締結之條約	一八一
第二十五節 締結之條約	一八一
第二十六節 締結之條約	一八一
第二十七節 締結之條約	一八一
第二十八節 締結之條約	一八一
第二十九節 締結之條約	一八一
第三十節 締結之條約	一八一
第三十一節 締結之條約	一八一
第三十二節 締結之條約	一八一
第三十三節 締結之條約	一八一
第三十四節 締結之條約	一八一
第三十五節 締結之條約	一八一
第三十六節 締結之條約	一八一
第三十七節 締結之條約	一八一
第三十八節 締結之條約	一八一
第三十九節 締結之條約	一八一
第四十節 締結之條約	一八一
第四十一節 締結之條約	一八一
第四十二節 締結之條約	一八一
第四十三節 締結之條約	一八一
第四十四節 締結之條約	一八一
第四十五節 締結之條約	一八一
第四十六節 締結之條約	一八一
第四十七節 締結之條約	一八一
第四十八節 締結之條約	一八一
第四十九節 締結之條約	一八一
第五十節 締結之條約	一八一
第五十一節 締結之條約	一八一
第五十二節 締結之條約	一八一
第五十三節 締結之條約	一八一
第五十四節 締結之條約	一八一
第五十五節 締結之條約	一八一
第五十六節 締結之條約	一八一
第五十七節 締結之條約	一八一
第五十八節 締結之條約	一八一
第五十九節 締結之條約	一八一
第六十節 締結之條約	一八一
第六十一節 締結之條約	一八一
第六十二節 締結之條約	一八一
第六十三節 締結之條約	一八一
第六十四節 締結之條約	一八一
第六十五節 締結之條約	一八一
第六十六節 締結之條約	一八一
第六十七節 締結之條約	一八一
第六十八節 締結之條約	一八一
第六十九節 締結之條約	一八一
第七十節 締結之條約	一八一
第七十一節 締結之條約	一八一
第七十二節 締結之條約	一八一
第七十三節 締結之條約	一八一
第七十四節 締結之條約	一八一
第七十五節 締結之條約	一八一
第七十六節 締結之條約	一八一
第七十七節 締結之條約	一八一
第七十八節 締結之條約	一八一
第七十九節 締結之條約	一八一
第八十節 締結之條約	一八一
第八十一節 締結之條約	一八一
第八十二節 締結之條約	一八一
第八十三節 締結之條約	一八一
第八十四節 締結之條約	一八一
第八十五節 締結之條約	一八一
第八十六節 締結之條約	一八一
第八十七節 締結之條約	一八一
第八十八節 締結之條約	一八一
第八十九節 締結之條約	一八一
第九十節 締結之條約	一八一
第九十一節 締結之條約	一八一
第九十二節 締結之條約	一八一
第九十三節 締結之條約	一八一
第九十四節 締結之條約	一八一
第九十五節 締結之條約	一八一
第九十六節 締結之條約	一八一
第九十七節 締結之條約	一八一
第九十八節 締結之條約	一八一
第九十九節 締結之條約	一八一
第一百節 締結之條約	一八一

第八章 附錄

一六一

禦ニ關スル戰鬪力ヲ増加スル修葺ヲ許ス所ニ非ス又中立國ノ任意ニ因リ交戰國軍艦ニ對シ航海用ノ物品ヲ支給スルニ付キ其分量ヲ制限スルハ妨ガシ例ヘハ軍艦ニ賣渡スヘキ石炭ノ分量ニ制限ヲ爲ス如キハ交戰國雙方ニ對シ之ヲ同一ニスルニ於テハ決シテ妨ガキ所ナリ要スルニ中立國版圖内ニ於テ交戰國ハ戰爭準備ヲ爲スヘカラズト云フハ其版圖内ヲ戰鬪行爲ノ根據地トスヘカラザルコト及ヒ其版圖内ヨリ敵國ニ對スル遠征ヲ爲スコト能ハサルヲ意味スルモノナリ

然レモ其國軍艦ノ普通用途ニ就テ禁制ヲ設ケルハ不始テ戰鬪行爲ノ根據地ト云フハ例ヘハ陸軍ニ於テハ中立國版圖内ヨリシテ輻重ヲ得若クハ其地ニ於テ兵士ヲ募リ若クハ其場所ヨリシテ敵國ヲ侵襲シ必要ノ場合ニハ之ニ引退スル處トスルカ如キ使用ヲ引續キ其地ニ於テ爲スト否トニ因リ戰鬪行爲ノ根據地ト爲シタルヤ否ヤヲ決スヘク海陸軍ノ中立國領内ニ於テ糧食其他ノ需用品ヲ臨時ニ取得シタルトテ根據地ト爲シタルモノト看做スヘカラザルニ反シ引續キ其地ニ之ヲ仰キテ戰爭行爲ニ從事スルハ縱令其支給ノ物品ノ性質上日常品ト雖モ中立國權利ノ侵犯ニシテ國際法上禁ズル所ナリ又

國際公法(續前)

局外中立ノ法則 局外中立國ノ權利義務 中立國ニ對スル交戰國ノ義務

敵國遠征ノ場所ヲ爲スルカラスル法フハ交戰國軍隊又ハ軍艦ノ其地ニ故ク組織シ又ハ艦裝シ以テ戰爭ニ向テラ意味スルモノニシテ千八百二十八年前國內亂ニ於テ「マリア」王ニ屬スル兵士ノ一隊ハ葡國ヨリ追擊セラレ英國ニ入りテ隱匿シ兵器ヲ携帶セテリシカ士官ノ指揮下ニ在ル團體トシテ滞在シ居タルニ千八百二十九年四艘ノ商船ニ乘組ミ「ブラジル」國ニ行クト稱シテ出發シ葡國領テ「ルセイラ」島ニ上陸セントシタルニ因リ英國ハ同島ニ軍艦ヲ派遣シ置キテ其上陸ヲ禁シ兵器ハ別ニ商品トシテ送リタリシカ其團體ヲ葡國ニ對スル遠征ト看做シテ之ヲ差押ヘタリ此英國軍艦ノ葡國領海ニ於テ差押ヲ爲シタルハ不法ナレトモ中立國タル英國ヨリ戰爭ノ遠征ヲ爲サントスルヲ差止メタルハ正當トス之ニ反シテ千八百七十年普佛戰爭ノ初ニ於テ米國在留ノ佛國人及ヒ獨逸人ハ本國ニ對スル兵役義務ヲ盡スカ爲メ歸國スルニ際シ箇箇別別又ハ小團體ニテ出發シタルハ問題ト爲ラサリシカ千二百名ノ佛國人ハ紐育港ヨリ二艘ノ佛國汽船ニ乘組ミ九萬六千挺ノ小銃及ヒ千百萬箇ノ彈丸ヲ積荷トシテ歸國セントシタルヲ以テ米國政府ハ之ヲ差止メタルニ法廷ハ獨逸ニ對スル遠征ニ非ス

トシ佛人ハ武器携帶ノ者ニ非ス又士官ノ監督ノ下ニ在ラサルニ因リ本國ニ上陸スルヤ否ヤ軍隊ニ入ルコト明カナレトモ直チニ之ヲ戰爭上ノ遠征トシテ出發スル者ト看做ス能ハス而シテ小銃彈丸ハ其物自體ハ正當ノ商品ナリトノ理由ヲ以テ之ヲ無罪トセリ之ヲ要スルニ敵國ニ對スル遠征ヲ爲スヘカラストハ其團體ニシテ陸軍又ハ海軍ノ指揮ノ下ニ在ラサルヘカラストシテ戰爭ニ直チニ使用シ得ヘキ物ニ付テノミ之ヲ禁止スルニ過キス

第二款 中立ノ規定及ヒ其違反

中立國ニ對スル義務ヲ交戰國ノ履行ヲ怠リ又ハ其義務ニ違反シタルトキハ中立國ハ其救済賠償ヲ求メ得ヘキノミナラス必要ノ場合ニハ兵力ヲ以テ自國權利ノ侵犯ヲ防キ若クハ侵犯者ヲ逮捕シ其物品ヲ差押ヘ得ヘシ加之中立國ハ他國ノ戰爭中自ラ其中立ヲ嚴正ニ維持スルノ必要ヨリシテ交戰國戰者ノ其版圖内ニ於テ遵守スヘキ法律規則ヲ實行シ得ヘシ然レトモ其中立ニ關スル規定ハ主トシテ領海内ニ於テ交戰國軍艦ニ對スルモノニシテ軍隊ハ中立國版圖内

ニ入ルコト能ハサレトモ海軍ニ付テハ中立國ニ於テ其入港ヲ禁スルニ非ザレハ自由ニ其領海及ヒ港灣ニ入り得ヘキモノニシテ此特權ノ由リテ來ル所ハ中立國ノ默許ニ在ルヲ原則トス隨テ中立國ハ其領内ニ交戰國軍艦ノ入ルヲ許スニ付キ自國ノ中立ヲ維持スルニ必要ナル條件ヲ附シ得ヘキモノニシテ交戰國ハ之ニ服従スルノ義務ヲ有シ單ニ其規定ノ不法ニシテ不相當ナル制限ヲ破ルヘカラサルコトヲ請求シ交戰國一方ニ偏重ナル待遇ヲ受クヘカラサルコトヲ要求シ得ルニ過キス但天災ニ因リ又ハ航海ニ不適當ナル狀態ニ陥ルトキハ中立國ノ規定如何ニ拘ハラズ其版圖内ナル如何ナル港ニ於テモ難ヲ避ケ得ヘシル方今中立國版圖内ニ於ケル交戰國軍艦ニ對スル規定トシテ諸國一般ニ行ハルル慣例ニ依レハ二十四時間ノ法則アリテ交戰國一方ノ軍艦ニシテ中立國ノ港ニ在ルトキハ其敵國軍艦若クハ商船ノ其港内ニ在ルニ際シ一方ノ船舶其港ヲ立去リタル後少クモ二十四時間ヲ經過セザレハ對手國ノ軍艦商船ヲ出港セシメサルヲ普通トシ其目的トスル所ハ自國領海又ハ領海附近ニ於テ戰爭行為ヲ爲スヲ防キ以テ同港ニ出入スル船舶又ハ自國領土ニ危險ヲ與フルヲ防クニ在

リ然レトモ時トシテハ軍艦司令官ニ於テ斯ル行為ヲ領海又ハ其近傍ニ於テ行ハサルコトノ證言ニ依リ出港ヲ許スコトナキニ非ス此法則ノ行ハルルニ至リタルハ千八百六十一年乃至千八百六十四年米國南軍ノ軍艦「ナシビル」號ノ英國「テウナンプトン」港ニ於テ修覆中北軍ノ軍艦「タスカロラ」號ノ同港ニ入港シ「ナシビル」號ノ出港ヲ待テ擊破セントシタルヲ以テ英國軍艦「ハタスカロラ」號ヲ二十四時間港内ニ止メ置キ「ナシビル」號ヲ公海ニ護送セリ此事件ヨリシテ英國ハ千八百六十二年一月三十一日前述二十四時間ノ法則ヲ規定シ且交戰國軍艦ハ其修覆ノ場合ヲ除キ少クモ入港後二十四時間内ニ於テ出港スヘキコトトシ其修覆ノ場合ニハ政府ノ特許ヲ受クヘク之ヲ終リタル後ハ二十四時間内ニ立去ルヘキコトヲ規定セリ而シテ交戰國軍艦ハ航海用ノ糧食其他ノ需用品ヲ其港内ニ於テ購求シ得ヘシト雖モ石炭ノ如キハ方今軍艦ノ爲メニハ殆ト兵器ト需用ノ程度ヲ同シクシ其多少ニ因リ戰鬥力ニ大差アルヲ以テ其賣渡ノ分量ニ制限ヲ設ク本國最近港マテノ航海ニ必要ナル分量以外ヲ一時ニ搭載スルコトヲ許サス又三箇月間ニ一度以上同一軍艦ニ其搭載ヲ禁セリ此規定ノ全部又ハ一部

ハ其後ノ戰爭ニ於テ諸國ノ適用スル所ト爲リ千八百七十年普佛戰爭ニ於テ米
 國モ英國ト同一ノ規定ヲ設ケ方今ニ於テハ國際法上ノ規定ト看做サルルニ至
 ラントシ一昨年比律賓戰爭ニ當リ我國ノ中立ニ關シテモ大體ニ於テ之ト同
 一ノ法令發布セラレタリ然レドモ此二十四時ノ法則及ヒ石炭ノ搭載ニ關スル
 制限ハ未タ以テ國際公法ノ法則ト確定シタルモノニ非ス若シ中立國ニ於テ交
 戰國雙方ニ對シ石炭ノ分量ニ付キ何等ノ規定ヲ爲カサルモ決シテ中立義務ハ
 違反ニ非ス
 交戰國軍艦ノ拿捕物ヲ率キテ中立國港内ニ入ルハ國際公法上禁スル所ニ非ス
 然レドモ今世紀ノ半頃ヨリシテ中立國ハ交戰國軍艦ノ拿捕物ヲ率キテ入港ス
 ルハ難破ヲ避ケル場合ノ外ハ諸國之ヲ禁スルニ至リ今後國際公法上ノ慣例ト
 爲ラントスルノ傾向アリ然レドモ方今ニ於テハ未タ中立國ノ義務トスル能ハ
 ス又陸戰ニ於テ交戰國軍隊ハ中立國領土内ニ入ル能ハサレドモ敵軍ノ追撃
 因リ已ムヲ得ス入り來ルコトナキニ非ス此場合ニ於テハ中立國ハ之ヲ追出ス
 ヘキ義務ナクシテ其兵士ヲ本國ニ返シ若クハ再ヒ戰爭ニ赴カシムル能ハスト

雖モ自國領内ニ入ルヤ否ヤ其兵器ヲ取去リ戰爭終了ニ至ルマテ自國ニ留置タ
 ヘキモノトス而シテ其留置ノ費用ハ本國政府ヨリ拂戻スヘキ義務ヲ有ス千八
 百七十一年佛國兵士八萬五千人ハ獨逸軍ノ爲メニ追撃セラレ瑞西國ニ入りテ
 ルニ同國ハ其兵器ヲ取去リ政府ヨリ衣食ヲ給シテ之ヲ留置キ戰爭後佛國政府
 ハ其費用ヲ返還シタルハ之カ一例ニシテブルセル宣言第五十三條ニ於テモ詳
 ニ之ヲ規定シ交戰國軍隊ニ屬スル兵士ヲ領内ニ入ルルトキハ兵器ヲ取去リ成
 ルヘク戰地ヨリ隔リタル場所ニ置クヘク兵營城堡若クハ一定ノ場所ヲ限リ留
 置シ得ヘク其士官ハ中立國政府ノ許可ナクシテ國境ヲ越ユサルヘキ宣誓ニ因
 リ居住ヲ自由ニシ得ヘク之ヲ爲スル否トハ中立國ノ任意ニ在ルコトヲ定メ第
 五十四條ニ於テハ中立國ハ斯ル兵士ヲ糧食衣服及ヒ總テ人情上支給スヘキモノ
 ハ之ヲ給與シ其自國ニ兵士ヲ留置シタルニ付キ要シタル一切ノ費用ハ媾和ノ
 時ニ於テ本國ヨリ支拂フヘキコトヲ規定シ平和會議陸戰ノ法規慣例ニ關スル
 規則第五十七條及ヒ第五十八條ニ於テモ同一ノ規定アリ
 交戰國ノ義務ヲ盡サズシテ中立國主權ヲ侵犯シタル場合ニ於テハ固ヨリ其救

濟賠償ヲ爲スヘキ責任ヲ有ス然レトモ其救済賠償ノ方法ハ國際公法上一定シタルモノナシ但中立國版圖内ニ於テ交戰國ノ海上捕獲ヲ行ヒタルトキハ其船舶並ニ積荷ヲ悉ク中立國ニ引渡スヘキコトハ既ニ一定シ中立國ハ之ヲ自國ノ法令ニ依リ又ハ行政處分ヲ以テ其原所有者ニ引渡スヘキモノタリ而シテ斯ル違反ノ行爲ニ對シ交戰國ノ中立國ニ爲スヘキ謝罪償金其他名譽ニ對スル救済ノ形式等ニ付テハ一定シタルノ法則ナク又一定シ得ヘキモノニ非スシテ各侵犯ノ場合ニ付キ事體ノ輕重ニ因リ當事者間ノ談判ニテ定ムヘキモノトス千八百六十四年十月ブラジル國「パヒヤ」港ニ於テ米國北軍軍艦カ南軍軍艦「フロリダ」號ヲ拿捕シタルニ對シ「ブラジル」國ノ抗議ニ因リ米國政府ハ拿捕ヲ爲シタル「ワチセット」號ノ艦長ヲ軍法會議ニテ罰シ「パヒヤ」港在留米國領事ハ拿捕教唆ノ故ヲ以テ免職セシメ拿捕ヲ行ヒタル場所ニ於テ「ブラジル」國旗ニ禮砲ヲ爲シ「フロリダ」號ハ航海中沈没シタル爲メ「ブラジル」國ニ引渡スコト能ハナリシカ其海員ハ總テ解放シタルハ其一例ナリ且「本國」海軍ニ對シテ「交戰國」ノ海軍ハ然レトモ交戰國ハ戰爭ノ避テ「カラサル」必要ニ迫リ中立國主權ヲ侵犯スルハ

咎ムヘカラスシテ戰地ニ於ケル中立國ノ物件ヲ戰鬪ノ進行上破損スルハ咎ムヘカラサルコト一般ノ原則上疑ナキ所ナレトモ船舶其他ノ財産ニシテ其地ヲ通過スルカ如キ戰地ニ固著セサル中立國ノ物件ニハ故意ニ戰鬪行爲ヲ及ボス能ハサルヲ通則トスルニ拘ラス交戰者ノ必要ニ迫リテハ斯ル物件ヲ使用又ハ破損スルコトアリ千八百七十年獨逸軍ハ佛國砲艦「セイン」河ニ上リ來ルニ際シ「ジュクレキ」ニ於テ六艘ノ英國商船ヲ沈メテ之ヲ防キ又同戰爭中アルサス州ニ於テ六百乃至七百輛ノ列車ニシテ瑞西國鐵道會社ニ屬スル物ヲ軍用ニ供シ英國ノ列車ヲモ戰爭用ニ充テタルハ其實例ニテ斯ル場合ニ於テハ中立國ニ對シ固ヨリ賠償スヘキノミナラス法理上ヨリ論スルトキハ斯ル行爲ハ決シテ正當ト爲スコト能ハスシテ「ヒリモール」ハ曰ク例ハ「箇人」ノ生命ヲ防禦スル爲メ隣人ノ馬又ハ武器ヲ收用スルカ如キ切迫シタル事情アルニ非サレハ決シテ之ヲ許スヘカラストシ「ダナ」ハ之ヲ交戰者ノ權利ト爲サスシテ必要ニ迫リタルトキニ於テ斯ル行爲ニ出ツルモノハ其謝罪ト賠償ヲ爲スヘク之ヲ拒ムニ於テハ戰爭ノ危險ノ伴フヘキモノト説キタレトモ近世ノ實例ニ於テ之ト同一ノ行

爲アルヲ以テ觀レハ慣例上之ヲ不法ト謂フコト能ハス斯ク必要ニ迫リ戰地ニ固著セサル中立國ノ物件ヲ使用若クハ破損シテ咎ムヘカラサル例外ノ法則ヲ名ケテアンガリヤ法ト曰フ

第三節 交戰國ニ對スル中立國ノ義務

戰爭中中立國ノ有スヘキ義務ノ範圍ニ付テハ方今國際公法ニ於テ最モ不明瞭ヲ極メ學說並ニ實例ノ一定セサルモノ多シ既ニ其全體ノ法則ニ於テ一定セザルカ爲メ其適用上益範圍ノ明瞭ヲ缺キ居ルコトナレトモ其義務ノ大體ヲ總括シテ言ヘハ直接又ハ間接ニ戰國ニ干與シ又ハ其一方ニ助勢シ若クハ人民ヲシテ戰爭行爲ニ助力セシメサルト同時ニ交戰國ノ政府又ハ商人ヲシテ自國領土内ヲ戰爭行爲ニ使用スルヲ禁シ又其領土内ニ於テ戰爭準備ニ從事セシメサルニ在リ今其義務ヲ類別スレハ

第一 交戰國ノ一方ニ對シテ兵力ノ助勢ヲ與ヘス又一方ニ與ヘタル如何ナル特權ヲモ他方ニ對シテモ拒ムコト能ハス

第二 交戰國ニ兵器、金錢等荷テ戰國力ヲ助ケル物件ヲ支給スヘカラス

第三 交戰國軍隊ニ對シ其領土内ヲ通行セズ又領土内ニ於テ兵士ヲ募集スルヲ禁退スルコトヲモテス

第四 交戰國ノ代人若クハ其人民ノ中立國領内ニ於テ戰爭ノ準備ヲ爲シ又其領土内ニ於テ又軍艦其他戰争ニ從事スル船舶ハ戰國力ヲ增加スルコトヲ許サズ

第五 局外中立ノ義務違反ヨリ生ズル直接ノ損害ハ被害國タル交戰國ニ對シ賠償スルコトヲモテス

第一條 戰爭行爲ニ干與又ハ助力スルカヲ禁ズル

局外中立ノ性質上中立國ハ軍艦又ハ軍隊ヲ以テ交戰國一方ヲ助勢スルカヲ禁ズルコトヲ其一方ニ對シ特別ノ便宜ヲ與テベキ條約ノ存在スル場合ニ於テモ戰争ニ際シテハ之ヲ實行スルコトヲ能ハス

戰國方ヲ給與スルハ中立義務ト違反トス隨テ千七百八十八年露國ニ對シテノ
戰爭ニ於テ丁抹國ハ條約ニ基キ露國ニ兵士ヲ貸與セタルヨリ以テ露國間斷スル
條約ヲ爲ス者ナク千七百七十八年米佛條約ニテ他國ノ軍艦其他ノ船舶ニ對シ
テハ戰爭中拿捕物ヲ率キテ自國港内ニ入り若クハ其港内ニ於テスル船舶ヲ檢
査シ或ハ拿捕物ヲ賣却スルヲ許サズ其航海ノ需用品ハ本國最近港ニ運ルニ必
要ナル物ノ外ハ買入ルルコトヲ禁スルニ拘ラス佛國船舶ニ對シテノミ之ヲ許
スベキコトヲ規定シタリシカ千七百九十三年英佛戰爭中ニ於テ米國政府ハ此
條約ノ實行ニ付キ困難ヲ極メ英國政府ハ嚴シク之ニ抗議シタルヲ以テ千八
百年米佛條約ニテハ前條約ヲ改正シ斯ル偏重ナル規定ヲ削除シ今日ニ於テハ交
戰國一方ニ對シテ待遇ヲ異ニスル條約ヲ締結スルモノナキニ至リ戰國用ノ船舶
兵器彈藥其他戰國ニ用フル物件又ハ金錢ヲ交戰國ニ給與スルハ中立義務ノ違
反ニシテ之ヲ貸與スルコトヲモ爲ス能ハス加之戰國用ノ物件ノ賣却スラモ國
際公法上禁スル所タリ然レトモ茲ニ注意ヲ要スルハ兵器其他戰國用ノ物件並
ニ金錢等ヲ交戰國一方ニ支給スル能ハサルハ中立國政府ノ義務ニシテ政府ニ

於テノミ之ヲ爲スヘカラキルニ止マリ中立國領内ニ在ル人民ニシテ商人的ニ
之ヲ爲スニ於テハ中立國ハ其行爲ニ付キ何タル責任ヲ負フモノニ非ス但シ國
家ハ他國ノ戰爭中自國ノ兵器船舶等ヲ政府ノ都合ニ因リ公賣セントスルニ當
リテ交戰國ノ代人ニシテ之ヲ買入ルルノ恐アルトキハ其購買ヲ爲スヘカラサ
ルベキヤニ付テハ問題ノ存スル所ナリ

千八百二十五年瑞典政府ハ海軍ヲ縮少スル爲メ六艘ノ軍艦ヲ西班牙政府ニ賣
却ヲ申込ミタリシカ之ニ應ヒザリシヲ以テ其三艘ヲ英國商人ニ賣渡シ同商人
ハ之ヲ墨西哥國ニ賣ラントセリ然ルニ當時墨西哥國ハ西班牙國ニ對シテ叛亂
ヲ爲シ居タルヲ以テ西班牙政府ノ抗議ニ因リ瑞典國ハ之ヲ上墨西哥國ニ軍艦
ヲ轉賣セラルヘキ事實ヲ知ラスシテ英國商人ニ賣ルタルニ拘ラス其賣却ヲ取消
シ又千八百六十三年英國政府ハ老朽ノ砲艦ビクトリア號ヲ一商社ニ賣却シタル
ニ其砲艦ノ米國南軍ノ手ニ入リタル事實アリタルヲ以テ同政府ハ南北戰爭
中他ノ軍艦ノ公賣ヲ中止セリ之ニ反シ千八百六十八年米國政府ハ舊式ノ兵器
及ヒ彈藥ヲ公賣スルコトヲ決定シ千八百七十年其公賣ヲ始メタルニ當時普佛

戰爭ノ爲メ之ヲ中止スル理由ナシトシ佛國政府ノ代人ハ米國ニ於テ大砲五千五門小銃三十七萬八千挺ヲ買入レ其代金ハ在紐育ノ佛國領事ヨリ米國政府ニ納メタリ此事件ニ關シ米國政府ノ理由トスル所ハ公賣ノ當時ニ於テハ札人ノ佛國代人ナルコトヲ知ラス若シ又之ヲ知リタリト假定スルモ米國政府ニ於テ兵器ヲ公賣ニ付スルコトト爲シタルハ普佛戰爭以前ノ行爲ニシテ偶千八百七十年ニ賣却ヲ始メタルハ其行爲ノ繼續ナルニ因リ之ヲ中止スルキ義務ナキモノトセリ蓋シ此米國ノ行爲ニ付テハ學者ハ非難アリテ此點ニ關シテハ未ダ一定ノ法則ナシト雖モ中立國ノ義務トシテハ其公賣ノ爲メ交戰國一方ノ觀闘力ヲ増加スルノ事實ヲ知リタルトキハ英國及ヒ瑞典國ノ如ク之ヲ中止スルキモノノ如シニ對シテハ問題アリ

中立國政府ハ交戰國ノ一方ニ對シテ金錢貸與スヘカラザルノミナラス千七百九十八年英佛戰爭中ニ於テ巴厘駐劄米國公使ハ佛國ノ公債募集ニ關シテ其保證ヲ與フヘキ要求ヲ拒絕シタルハ學者一般ニ正當ト認ムル所ナリ然レトモ近世學者中ニ於テヌラ中立國ノ義務ト中立國人民ノ義務トヲ混同シ中立國人

民ヨリシテ交戰國ニ金錢ヲ貸與シ又ハ其公債募集ニ應ズルコトニ異論ヲ唱フル者アレトモ中立國人民ノ金錢ヲ支給シ公債募集ニ應ズルカ如キハ決シテ咎ムル所ニ非ス何トナレハ金錢ハ商業上物品ノ代用ニシテ總テ中立國人民ハ之ヲ使用シテ戰爭中ト雖モ交戰國雙方ト商業ヲ繼續スルモノナルニ因リ尙モ商業ヲ中止セザル以上ハ金錢ノ流出流入スルハ中立國ト交戰國トノ間ニ免ルルコト能ハサル所ナリ又交戰國ノ公債ノ一度市場ニ現ハルルトキハ之ヲ賣買スルハ諸國民ノ自由ニシテ總令中立國ニ於テ其人民ノ公債買買ヲ禁セントスルモ決シテ爲シ能ハサル所ナルニ因リ中立國ハ斯ル人民ノ行爲ニ付キ何タル義務ヲ有スルモノニ非ス單ニ戰爭ト費用ヲ補助スル爲メ中立國人民ヨリ交戰國ニ金錢ヲ輸入スル如キハ之ヲ戰時禁制品トシテ敵國ハ海上ニ於テ捕獲スルノ危險自ラ伴ヒ居ルニ過キス此道理ハ單ニ金錢ニ限ラス兵器彈藥其他軍用品ノ賣買ニ付テモ同一ニシテ中立國政府ハ其賣買讓渡ヲ關スル公ノ手續ヲ爲スヘカラサルニ止マリ千八百八十五年阿片戰爭ニ於テ米國政府ハ上海ノ自國領事ニ訓令シテ佛國ニ對スル觀闘ニ使用スル爲メ清國ニ向ヒ米國商船ノ讓渡ヲ公認

スヘカラスト爲シタルニ止マリ米國人民ノ賣買ヲ禁セザリシヲ以テ觀ルモ之ヲ證スルニ足ルヘシ

第二款 中立國版圖内ヲ戰爭行爲ノ用ニ供セシメ

サルノ義務

「グロシユース」ハ交戰國軍隊ノ中立國ヲ通過スルハ其權利ト認メ中立國ニ於テ正當ノ理由ニ因リテ之ヲ拒ム場合ニ非ナレハ強迫的ニ通過スルヲ得ルモノトナシ「バタル」モ中立國版圖内ニ於テ交戰國ハ兵士ヲ募集シ得ヘク其兵士ハ軍隊ノ主要ナル部分ヲ占メタル以上ハ中立國ニ於テ之ヲ許可シタルカ爲メ何タル義務ヲ負フコトナシトシ軍隊ノ通過ニ付テモ其許可ヲ交戰國雙方ニ對シテ爲ストキハ中立タルニ妨ケンシト論シ近世學者中ニ於テモ「ホイート」ノ如キハ軍隊通過ノ權利ヲ認メ之ヲ不完全ナル權利ト名ク中立國ノ意思ニ反シ強行ス「ヘカラスト」爲シタルニ過キス又マンニン「フヒリ」モ中立國ハ同一ノ許可ヲ交戰國雙方ニ與フルトキハ中立タルニ妨ケンシト説ケリ然レトモ之ニ反對ノ學說ハ却テ有力ニテ「ヘフタル」「ブルン」チユリ「カルゴ

「ホイール」等ノ學者ノ多數ヲ占メ交戰國ノ中立國領内ニ於テ兵士ヲ募集スル他ハ中立國モ之ヲ禁止スヘキ義務アルコトハ第十八世紀中ヨリシテ諸國ノ認ムル所ト爲リ今日ニ至リテハ亦疑ナキモノトス凡ソ中立國領内ヲ交戰國軍隊ノ通過ニ關シテハ中立國ニ於テ交戰國間ニ於ケル戰爭ノ進行上利害關係同一ナル事情ノ下ニ交戰國雙方ノ軍隊ノ通行セシムル能ハサルゾミナラズ戰爭ノ勝敗ニ大關係ヲ有スル瞬間ニ於テ交戰國一方ニ軍隊ノ通過ヲ爲サシムルハ戰國ヲ助勢スルモノナラサルヲ得ヌ加之其軍隊通行ヲ許ス行爲自體ハ其性質上戰爭ノ進行ヲ助ケルモノナルヲ以テ中立ノ性質ニ反スルモノトス隨テ千八百十五年ニハ英國軍隊カ瑞西國ヲ通過シテ佛國領土ヲ攻撃シタルコトアレドモ千八百七十年ニ於テハ「アルサス」州ノ兵士ニシテ佛國陸軍本隊ニ合併スル爲メ瑞西國ノ版圖ノ通行ヲ求メタルニ同國ハ斷然之ヲ拒絕シ若シ兵器ヲ携帯セズ軍服ヲ著セザル者ニ非ナレハ其通行ヲ拒ミ又白耳義國モセダン戰爭後獨逸軍隊ノ負傷者多數ヲ有シ困難シタルニ拘ラス自國鐵道ヲ其負傷者ノ運搬ニ用フルコトスラ之ヲ拒ミ佛國ハ當時若シ白耳義國ニ於テ其通過ヲ許サハ中立

違反タルコトヲ發言セリ但シ中立國ハ交戰國ニ對シテ其通過ヲ許シ得ヘキヤ否キニ付テハ其後學者間ニ議論ヲ生シ遂ニアルマニシテ宣言第五十五條ニ於テ中立國ハ交戰國軍隊ニ屬スル病者負傷者ヲシテ版圖内ヲ通過スルヲ許シ得ヘシ尤モ其運搬ノ列車中ニ戰闘ニ關スル人又ハ物ヲ積込マル場合ニ限ルヘク又病者負傷者ヲ通過ヲ許スニ付テハ中立國ハ其運搬ノ安全及ヒ之ヲ監督ニ必要ナル手段ヲ講スルノ義務アリト規定シ平和會議ノ陸戰例規第五十九條ニ於テモ之ト同一ノ規定アリ陸ヲ方今ニ於テハ交戰國軍隊ノ中立國ヲ通過スルハ病者負傷者以外ハ總テ不法ト看做サレ千八百七十七年墨西哥軍隊ノ反亂者ヲ追撃シテ「タキザ」州ニ入リタルニ當リテモ米國政府ヨリ激烈ノ抗議ヲ來セリ之ニ反シテ同年露土戰爭ノ初ニ於テ露國ハ「ルーマニア」國トノ條約ニ因リ土國ヲ攻撃ノ爲メ同國領内ヲ通過セテ露國軍隊ノ其道路鐵道電信等ヲ自由ニ使用スヘキコトヲ約定シ五十萬ソ兵士ハ「ルーマニア」ヲ通過セテ「ブルガリア」國ニ侵入シタルノ事實アリト雖モ是レ全ク歐洲東方ニ於ケル國際公法上ノ例外ナルシミナラス「ルーマニア」國ハ當時土國ノ屬國ナシテ獨立セシメタルモノナリ

「因リ露國兵士外之ヲ通過セザル」ハ名義土ヨリ實ニ露國領土ニ入リテシテモスト同シタズ「ルーマニア」國モ其獨立ヲ爲テシキルニ付テ露國ヲ助テ先ツ軍隊ノ通過ヲ許可セザ直チニ自國兵士ヲ以テ露國領内ニ侵入シテ其地ニ由リテ直チニ於テ我軍隊ノ朝鮮ヲ通過セザルヲ異ナルコトトシテ此例外ヲ見テ直チニ之ヲ中立國ニ關スル法則ト論定スルコト能ハス土内ニ領土兵器又ハ交戰國一方ノ軍隊ニシテ散軍ヲ爲テニ追撃セラレ中立國ニ入ルヲ許ス場合ニハ戰爭ノ終リニテ其兵士ヲ留メ置クベシ義務アリトモ既に述べタルカ如ク此場合ニ於テ軍隊ハ俘虜ヲ携帶スルヲ許サズ俘虜ヲ有スル國モ中立國版圖内ニ入ルヤ否ヤ自由ノ身體ト爲ルベキニシテ然レモ軍艦ニシテ俘虜ヲ以テ中立國港内ニ入ルトキハ其艦内ニ在ル間ニ中立國ノ干渉スルヲ許サズ若シ俘虜ニシテ艦外ニ出ツルトキハ交戰者ハ中立國版圖内ニ於テ捕フルコト能ハス中立國モ亦之ヲ捕ヘテ軍艦ニ引渡スル中立義務ヲ違反トシ又中立國版圖内ニ於テ交戰國カ兵士ヲ募集スル權利ナキコトニ付テハ第十八世紀ニ於テ其議論頗レ稀西國ニ常ニ隣國トシ條約土兵士ヲ挽戰國ニ給送來リシ千八百五十九

年以來英國其他歐洲大陸之ニ干渉シ同國ニ其人民ニ對シ外國軍隊ニ入ルコトヲ禁スルニ法律ヲ發布セリト同時ニ他國ニ於テモ其戰争ニ端西國ノ兵士ヲ使用スルヲ禁スルニ至リ今日ニ於テ中立國ニ於テ兵士ヲ募集シ禁スヘキ義務明カナルニ至レリ又中立國領土ニ於テ戰國ノ軍隊ヲ交戰國ニ中立國ノ領土領海ヨリシテ武裝ノ遠征ヲ爲スヘカラスル義務ヲ有スルト同時ニ中立國モ亦其版圖内ニ於テ武裝ノ遠征ヲ爲ス者ヲ禁止スヘキ又其版圖内ニ於テ交戰國軍艦其他戰國用テ船舶若シテ軍隊ノ戰闘力ヲ増加スルヘカラスル義務ヲ有シ交戰國一方ニ反對シテ戰争ノ爲メ人民團體ノ組織シテ海陸軍兵士ヲ出發スルヲ防クヘキモノトシテ其版圖内ノ人民ヲシテ嚴正ニ中立ヲ維持セシムヘキモノトシテ隨テ交戰國軍艦等ノ其領土内ニ於テ兵器ヲ増加スル如キハ之ヲ禁止スルノ義務アリテ其水兵ヲ募集スルカ如キ行爲ヲ爲サシメタルニ付キ相當ノ方法ヲ講セタルヘカラス而シテ中立國モ常ニ此點ニ付テハ自國ノ權利ヲ侵害セラルルヲ防クテ手段ヲ取ルコトヲ努メ米國ニ於テハ千八百十八年法律ヲ以テ其版圖内ノ人民ニシテ交戰國船舶ヲ港内ニ在ル者ニ

對シ戰闘力ヲ増加スルノ行爲ヲ禁シ軍艦本國ノ人民ヲ除キ其他ノ人民ハ水兵ト爲ルコトヲ禁シ千八百十九年英國法律ニテモ同一ノ規定ヲ設ク但シ水兵ト爲ルコトニ付キ米國法律ノ例外ヲ削除セリ然レドモ茲ニ注意ヲ要スヘキハ總テ列國內國法ノ規定如何ニ拘ラス諸國ハ國際公法上ノ義務ヲ免ルル能ハスシテ若シ内國法ノ規定ニシテ國際公法ヨリ嚴ナル場合ニ於テモ交戰國ハ其規定ヲ利用シテ之ニ反スル中立國ノ行爲ヲ責ムル能ハサルト同時ニ中立國ニシテ内國法ノ寬大ニ失スル所ヨリ國際公法上中立ノ義務ヲ盡サザル下キハ内國法ヲ以テ其義務不履行ノ抗辯トスルヨリ能ハスル又禁止セザルハ之ニ因テ中立國ハ其人民ノ交戰國一方ヨリ海上拿捕ノ免狀ヲ得ルヲ許サザルノ義務ヲ有ス何トナレハ之ヲ受タル者ハ中立國人民タル資格之ニ對シテ關係ヲ有セナカラ戰争行爲ニ從事スルモノナルヲ以テ又其人民ノ版圖内ニ於テ交戰國ノ海陸軍ニ入り若クハ之ニ加ハル目的ヲ以テ出發スルヲ禁スヘキモノトシ但シ國家ハ其人民ノ個人ニ付キ其動作ヲ一ニ監督スルコト能ハサルニ因リ人民ノ簡箇別別ニ領内ヲ出テ交戰國ニ至リテ戰闘ヲ加ハル者ヲ防止スルハ決シ

ヲ爲シ能ハサルコトニテ交戰國モ各任意ニ其軍隊ニ加ハレル中立國人ハ之ヲ用ヒ得ヘク又之ヲ爲メ大ナル影響ヲ戰國上ニ及ボササルノ事ナラスル所箇人ハ交戰國戰國者ト爲ルニ於テ中立國人民ノ特權ヲ失フヘキモノナルニ因リ斯ク箇人のニ交戰國ニ赴キ戰爭ニ從事スル者ヲ防止スルニ責任ハ中立國ノ有セタルモノトス然レトモ自國領内ニ於テ軍隊ヲ組織シテ交戰國ノ戰爭ニ加ハル爲メ出發スルカ又ハ交戰國軍隊ニ加入ノ目的ヲ以テ多數人民ノ續續交戰國ニ赴ク如キハ政府ニ於テモ容易ニ之ヲ知り得ヘク又禁止シ得ヘキモノナルニ因リ斯ル場合ニ於テハ其出發ヲ防止スルニ義務アルモノトス隨テ千八百七十六年露國數千名ノ人民カ團體ヲ爲シテ土國上ニセルビヤ國トシテ戰爭ニ於テセルビヤ軍隊ニ加ハルノ目的ヲ以テ露國南部ノ國境ニ向ヒ出發セル際ニ政府ノ之ヲ禁セザリシハ中立ノ義務ヲ盡サザリシモノトス蓋シ國民ノ交戰國一方ニ同情ヲ表スルニ當リテハ其意向ヲ制止スルコト政府ニ取リテ尤モ困難ナル業ニ屬シ千七百九十三年英佛戰爭ニ於テ米國人民ノ佛國ニ同情ヲ表シ千八百三十八年加奈太内亂ニ於テハ米國人民ノ反亂者ニ加擔シ南北戰爭ニ於テハ英國人

民ノ南軍ニ同情ヲ表シタル際ニ於ケルカ如ク國民ノ熱情ニ對シ其行爲ヲ禁遏シテ以テ嚴正ノ中立ヲ維持スルハ何レノ國ノ政府ニ於テモ困難ナリト雖モ其困難ナルカ爲メ中立國ハ義務ヲ免ル能ハヌ又交戰國一方ヨリ中立國人民又拿捕ヲ行フ免許狀ヲ受クルハ中世以來行ハレタル所ナリシカ千八百五十六年巴里宣言ニ依リ私船ヲ以テ拿捕ノ用ニ供スルヲ禁シタルカ爲メ今日ニ於テハ其免許狀ヲ受クル者ナク締盟國ハ之ヲ出ヌ能ハサルニ因リ免許狀ヲ受クルノ禁止ハ論ナキニ至レリ百六十二年米國領事中ニモハヤ事ヲ於テ千八百五十二年ハ第三款ニ中立義務ヲ不履行ヨリ直接ニ結果スル其損害ハ中立國ノ義務ヲ履行セザルヨリ交戰國一方ニ生スル損害ニ付テハ交戰國ハ其賠償ヲ中立國ニ求ムルノ權利ナキコトヲ主張スル學者ナキニ非ス其理由トスル所ハ交戰國ノ中立國版圖内ニ於テ戰闘ヲ爲シ又ハ海上捕獲ヲ爲スカ如キハ中立國ノ主權ヲ侵害スルモノナレトモ交戰國間ニ於テハ兵力アルノモノニシテ中立國ノ義務ヲ履行セザルノ結果ハ其一方ノ兵力ヲ強メタリトテ相手國タカ

其敵國ノ戰爭ニ關スル權利上ニ何タル直接ノ侵害ヲ爲シタル者ニ非スルニ在リ然レトモ此議論ノ誤リナルコトニ「フナタル」「ブルンヂユリ」「カルボト」等ニ依リ證明サレタル所ニシテ國際公法上國家ニ權利義務ヲ定メタル以上ハ其國際關係上一國ノ義務ヲ履行セサルハ則チ他國ノ權利ヲ侵害シタルモノナラサルヲ得ス而シテ斯ル權利ノ侵害ノ爲メ結果スル損害ヲ賠償スル責任ナシトセハ國際公法ノ基礎ヲ攻撃スルモノナラサルヲ得ス隨テ中立國ノ義務ヲ怠リ又ハ履行セサルヨリ生スル交戰國ノ戰爭ノ損害ニ付テハ中立國ニ對シテ其賠償ヲ要請シ得ヘク千八百六十二年米國戰爭中アラバマ事件ニ付キ千八百七十二年ゼキバ「仲裁裁判」ノ判決ニ依リ「アラバマ」「ジョウジヤ」「フロリダ」等南軍ニ屬スル戰爭用ノ船舶ヲ英國ニ於テ製造武裝シタルノ故ヲ以テ千五百五十萬弗ヲ英國政府ヨリ米國政府ニ賠償シタルカ如キハ其實例ナリ

今有名ナル「アラバマ」事件ノ概要ヲ説明センニ千八百六十二年「アラバマ」號ハ英國「バールブル」港ニ於テ「レヤード」商會ノ爲メニ製造セラレ同年三月十五日進水式ヲ行ヒタルニ同港在留米國領事ハ南軍ノ軍艦ト爲ス目的ヲ以テ製造中ナ

ルコトヲ探知シ之ヲ在倫敦米國公使「ダムス」氏ニ報告セタルニ因リ六月二十三日同公使ハ英國外務大臣ニ迫リ該船舶ハ戰爭行為ヲ爲スヘキ明カナル目的ニテ製造セラレ南軍代表者ノ爲メニ指揮セラレントシ既ニ其代表者ハ英國ニ渡來シ居リ又船舶ノ製造ヲ注文シタル者ハ南軍ノ代理者及ヒ士官タルコトハ「バールブル」港ニ於テ隠レナキ所タルヲ以テ英國政府ニ於テ同船舶出港ヲ差止ラレンコトヲ請求シタルニ由リ政府ハ「バールブル」港ノ稅關長ヲシテ其事情ヲ探知セシメ七月一日稅關長並ニ大藏大臣ノ意見ニテ「アラバマ」號ハ戰爭用ノ爲メ製造中ナルコト明カナレトモ大砲彈藥等ヲ搭載セサルヲ以テ英國法律ニ由リ差押ヲ爲スヘキ證據不十分ナルモノトシ米國領事ニ南軍ノ之ヲ軍艦ト爲スヘキ證據ヲ蒐集スヘキコトヲ回答シ領事ハ七月廿二日其證據書類ヲ米國公使ニ提出シ二十四日公使ハ證據書類ト辯護士ノ意見書ヲ外務大臣ニ出シ重テ差押ヲ請求シタルニ因リ英國政府ハ之ヲ法律顧問會ニ付シテ研究セヨメタルニ二十八日ニ至リ同會ヨリ外務大臣ニ復牒シテ該船舶ハ其出港ヲ差止ムヘキモノナリトモ然レニ「アラバマ」號ハ同日朝航海試驗ノ姿ヲ裝ヒテ出帆シ英

國ノ版圖内ナル「アングレン」一小灣ニ至ラテ「リバイアール」ヨリ別船ニテ送
 リテ「タル」四十名ノ水夫ヲ乗込マシメタリ但シ「リバイアール」既關ニ於テハ四
 十名ノ水夫ノ商船ニ乗込ミ出發シタル「アラバ」號ニ乗込マシムルコトヲ
 知リタルニ拘ラス之ヲ差止メザリシ事實アリ而シテ三十一日「アラバ」號ハ
 「亞弗利加」ゾール島ニ於ケル「タルセ」港ニ入り倫敦及ヒ「リバイアール」ヨリ
 二艘ノ船舶ニテ之ヲ送リタル兵器彈藥其他船舶ノ艦裝ヲ整ヘ更ニ水夫ヲモ乗
 込マシメ以テ南軍艦トシテ海上捕獲ニ從事シ戰爭中北軍ノ商船七十艘ヲ捕
 獲シ又英國ノ港灣ニハ屢ニ入港セタルモノニテ「フロリダ」シエナンド「バ」等ノ船
 船モ相類似シタル事情ニテ英國ニ於テ製造セラレ兵器ト船舶ト別列ニ製造シ
 テ英國領海外ニ於テ其武裝ヲ整ヘテ軍艦トシ以テ南北戰爭中海上捕獲ニ從事
 シタルモノトス隨テ「アラバ」以下ノ事件ヲ觀ルトキハ英國ニテ其艦體ト兵器
 トハ別ニ注文セラレシモノニテ之ヲ簡簡ノ注文ニ付テ觀察スルトキハ固ヨリ
 各ハハカラナル賣買ニ過キス然レトモ其注文ヲ綜合シテ觀ルトキハ中立國
 於テ交戰國ニ對スル戰爭上ノ總征ヲ許シタルモノトス隨テ此事件ハ戰爭後英

米兩國ノ問題ト爲リ千八百七十一年華盛頓條約ニ依リテ「英米兩國」ノ各代表
 者及ヒ「伊瑞西」並ニ「ブラジル」三國ノ代表者ヨリ成立セル仲裁裁判ニ付スルコト
 トシ千八百七十二年九月十四日「ゼネバ」仲裁裁判ニ依リ前述ノ如キ判決ヲ下セ
 リ而シテ「英米兩國」ハ此問題ヲ仲裁法廷ニ出スニ先テ「華盛頓條約」以テ此事件
 ヲ審判スル基礎ト爲ルヘキ法則トシテ同條約第六條ニ於テ左ノ法則ヲ定メ
 タリ「英米兩國」ハ「伊瑞西」並ニ「ブラジル」三國ノ代表者ヨリ成立セル
 中立國政府ハ第一其版圖内ニ於テ平和ノ關係ニ在ル國家ニ對シ巡洋又ハ戰爭
 行爲ヲ爲スノ目的ヲ有スト認ムルニ足ルヘキ船舶ノ製造艦裝武裝ヲ防遏スル
 爲メ相當ノ注意ヲ爲スヘキ又巡洋若クハ戰爭行爲ヲ爲ス目的ナル船舶即チ其
 船舶ノ全體若クハ一部ハ殊ニ戰爭ノ用ニ適シタルモノ其版圖内ヨリ出發スル
 ヲ防止スヘキ相當ノ注意ヲ爲スヘキコト第二其港灣又ハ領海ヲ交戰國一方ノ
 他方ニ對シテ海軍使用ノ根據地トシ又ハ軍事上ノ需用品若クハ兵器ノ改新又
 ハ増加或ハ兵士募集ノ目的ニ使用スルノ許可若クハ其使用ヲ爲サシメタルコ
 ト第三港灣又ハ領海ニ關シ並ニ版圖内ニ於ケル總タル人民ニ關シテ前記ノ義

務ヲ破ル者アルヲ防止スルニ付キ相當ノ注意ヲ爲スヘキ義務アルコト是ナリ」此法則タル英、米兩國ノ華盛頓條約締結ノ當時ニ於テ國際公法ノ法則タリシモノニ非ス隨テ英國政府モ同條約中ニ於テ「アラバマ」以下ノ事件ニ付キ米國政府ヨリシテ損害賠償ノ要求アリタル當時ニ於ケル國際公法ノ原則トシテ之ヲ認ムル能ハス單ニ兩國ノ交誼ヲ厚クシ且ツ將來ニ於ケル完全ナル法則ヲ設タルカ爲メ兩國間ノ此問題ヲ決スルニ當リ此規則ニ依ルヘキコトヲ仲裁裁判者ニ於テ了知セラルヘク又將來兩締盟國ハ此規定ヲ遵奉スヘク且ツ他ノ海上諸國ノ之ニ同意スルコトヲ勸誘スヘキヲ約定スト明定セリ而シテ「ゼネバ」仲裁者ハ英國代表者ヲ除キ多數ヲ以テ英國ハ前記規則中ニ於ケル相當ノ注意ヲ缺キタルモノトシ米國ノ勝訴ト爲セリ然レトモ此判決ノ當否並ニ華盛頓條約ノ三法則ニ關シテハ其後議論百出シ「カルボ」其他大陸ノ公法學者ハ之ヲ以テ現行國際公法ノ明瞭ナル規定ト看做ス者多ク英米兩國其他ノ學者中ニ於テハ若シ此法則ヲ實行スルトキハ從來國際公法ト爲リ居ラザル壓制且ツ實行スヘカラザル義務ヲ中立國ニ負ハシムルモノトスルモノ尠カラス千八百七十三年三月英國

宰相「グラッドストーン」モ議會ニ於テ公言シテ曰ク英國政府カ此法則ニ付キ諸國ノ同意ヲ求ムル場合ニ於テ「ハゼチ」仲裁者ノ判決ハ總令其一部タリトモ其法則ニ附隨スル法規ト國際公法上看做スコト能ハザルモノトシ千八百七十一年乃至七十四年ニ於テ英米兩國政府ハ華盛頓條約ノ規定ニ基キ第六條ノ法則ヲ諸國ニ通知シ其同意ヲ求メントスルニ當リ其通知書ニ付キ意見ヲ異ニシ七十六年以後ハ之ニ諸國ノ同意ヲ得ントスルノ企モ廢止ト爲レリ又之ニ先テ英國及ヒ獨逸政府ハ此法則ニ全然承諾ヲ拒絕スヘキコトヲ公ニシ如何ナル國モ未タ之ヲ實行セントノ意思ヲ表明セタルコトナク三法則ノ如キハ方今英米兩國間ニ於テスラ效力アルヤ否ヤハ疑ハシキニ至レリ「ゼネバ」仲裁者ハ果要スルニ華盛頓條約ノ三法則ヲ「ゼネバ」仲裁者ノ適用スルニ當リ英國政府ハ果シテ所謂相當ノ注意ヲ爲シタルヤ否ヤノ論點ニ歸著スト雖モ前述ノ如ク「アラバマ」號出帆當時ノ事情ヲ審ニシ英國ハ其相當ノ注意ヲ缺キタルモノトスヘキヤ否ヤハ別問題トシテ茲ニ論スルノ必要ナシ然レトモ總テ中立國ノ義務履行ニ關シテハ相當ノ注意ヲ怠リタルト否トニ依リ其損害ニ對スル救済賠償ノ

責任ヲ有スルヤ否ヤノ岐アル所ナルヲ以テ相當ノ注意トハ果シテ如何ナル程度ノモノナルヤヲ審ニスルノ必要アリ此點ニ付キ「アラバ」仲裁事件ニ於テ「モ」仲裁裁判ニ提出セシ米國政府ノ議論ニ據ラハ中立國ノ義務ハ其危急ノ程度ニ因ルヘク換言スレハ其義務ヲ怠ルヨリシテ結果スル交戦國ノ損害ノ大小ニ因リ之ヲ酌量シテ定ムヘキコトトシ之ニ反シ英國政府ハ國際慣例上又ハ條約ニ於テ國家カ各場合ニ臨ミテ盡スヘキ義務ノ程度ニ因リテ果シテ中立國ハ一定ノ事件ニ付キ其義務ヲ盡スニ當リ相當ノ注意ヲ爲シタルヤ否ヤヲ決スヘク其慣例若クハ條約ニ於テ程度ノ明カナラサルトキハ正義平等等國際公法ノ基礎ト爲レル道理ニ依リ之ヲ判定スル外ナシト論セリ然レトモ此英國ノ議論ハ中立國ノ義務果シテ如何ノ問題ニ於テ其義務ヲ盡スノ程度ハ國際公法ノ義務自體ニ依リテ判定スヘシトスルモノニテ其要領ヲ得ヌ即チ所謂循環論タルヲ免レス又米國政府ノ議論モ中立國ノ義務ヲ知ラントスルニ於テ其義務ヲ盡ササルヨリ生スル未必定ノ結果ヨリ之ヲ判定スヘシトスルモノナルヲ以テ若シ其結果ニシテ幸ニ損害小ナルトキハ中立國ノ責任モ小ニシテ同一種ノ事件ニ

シテ其義務ヲ怠リタル結果ノ不幸ニシテ大ナルトキハ其前ニ避リテ之ヲ防止スヘキ注意ノ程度モ大ナルヘキモノトスルニ在リテ畢竟行フ能ハサルモノト謂ハサルヲ得ス隨テ「モ」仲裁者ハ相當ノ注意トハ中立國ノ義務ヲ履行セサルヨリシテ結果スルコトアルヘキ危険ニ比例スヘキコトト爲セリ此論タル稍「正當」ナリヤノ觀アリト雖モ實際ニ於テハ愈々不條理ノ解釋ニシテ中立國ノ義務ヲ益々不明ナラシムルノ說タルヲ免レス何トナレハ若シ之ヲ正當トスルニ於テハ一戰爭中ニ於テモ中立國ノ地位其他ノ事情ニ因リ其義務ヲ盡ササルヨリシテ交戦國ニ來スコトアルヘキ危険ノ程度ヲ異ニシ更ニ同一國ニ於テモ一戰爭中ニ於テ交戦國間ノ戰鬪進行ノ模様ニ因リ其義務ヲ盡ササルヨリシテ生スルコトアルヘキ危険ノ程度ハ時刻刻變化セサルヲ得ス然ルニ中立國ハ交戦國雙方ニ平和ノ關係ヲ保持シ戰爭ニ關シテ何タル干與ヲモ爲サス其進行ニ付テモ無關係ナルニ拘ラス其義務ヲ盡スヘキ注意ノ程度ハ國家ノ位置其他ニ付キ常ニ變化スヘシトスルトキハ國際公法上中立國ノ義務如何ヲ一定スルコト能ハサルニ至ルヘキヲ以テナリ

中立國版圖内ニ於テ交戰國船舶カ敵國船舶ノ爲メ攻撃シタル場合ニ兵力抵抗ヲ爲ストキハ其被リタル損害ヲ中立國ノ保護ヲ爲サリシテ理由トシテ之ニ賠償ヲ求ムルコト能ハサルコト方今稍一定シタル所ナリ千八百十四年英米戰爭中米國ノ私艦アームストロング號ハ葡萄牙港内ニ於テ英國軍艦ノ爲メ破壊セラレタルニ米國政府ハ葡國ニ對シ之ニ保護ヲ與ヘサリシテ理由トシテ損害賠償ヲ請求シ千八百五十二年佛國大統領ルイナポレオンニ其仲裁裁判ヲ依頼シ仲裁者ハ米國ノ請求ヲ不當トセリ其理由タル「アームストロング」號ハ葡國政府ノ保護ニ依頼セズ英國軍艦ヨリ短艇ヲ以テ之ニ近キタルモノニ發砲シ自ラ葡國ノ中立ヲ犯シタルニ因リ同國ニ於テ之ヲ保護スヘキ義務ヲ免レタルモノト云フニ在リ此判決ノ理由ハ英國法學者ハ正當トシ米國ニ於テハ之ニ反對若クハ制限ヲ爲サントスルノ傾向アリ而シテ米國國會ハ「アームストロング」號所有者ニ國庫ヨリ賠償ヲ拂フコトヲ決議セリ要スルニ此場合ニ於テハ英米兩國ノ船舶ト共ニ葡國ノ中立ヲ侵害シタルモノニシテ其不正ノ行爲ニ基クル損害ニ對シ中立國ヨリ賠償ヲ求ムル能ハストスルニ外ナラス

即チ企業者ノ所得ニ歸スルモノニシテ是レ即チ總利潤ナルモノナリ此總利潤ハ左ニ掲タル原素ノ全部若クハ一部ヲ包含スルモノトス

第一 地代 地代者モ企業者カ自己ノ土地ヲ使用スルトキ此總利潤ノ一部ハ地代ノ性質ヲ帶フルモノトス

第二 利息 企業者カ自己ノ資本ヲ使用セルトキハ之ニ對シテ利息ヲ得サルヘカラス株式會社ノ株主カ獲得スル利益配當金ノ如キハ此原素ヲ含ムコト甚多シトス

第三 賃銀 賃銀者自ラ勞動スルトキハ之ニ對シテ相當ノ報酬ヲ領收スヘキモノトス而シテ小企業ニ於テハ企業者ハ其雇入レタル勞動者ト殆ト同一ノ勞動ニ從事スルカ故ニ此種ノ企業者ノ總利潤ハ賃銀ノ性質ヲ有スル部分甚多ク之ニ反シテ株式會社ノ株主ノ獲得スル利益配當金ノ如キハ此原素ヲ含ムコト極メテ少シト謂ハサルヘカラス

第四 純利潤 業世上普通ノ割合ヲ以テ以上列記セル地代利息及ヒ賃銀ヲ計算シテ之ヲ總利潤ヨリ控除シテ所餘ニ殘留スル部分ヲ純利潤ト稱ス是レ即チ企

業者カ企業者トシテ受クル報酬ナリ之ヲ換言スレハ企業者カ損失ノ危險ヲ冒シ生産ノ三要素ヲ結合スルコトニ對シテ受クル報酬ナリト云フ。然レモ總利潤ニ包含セラルル地代利息賃銀タルヘキ部分ハ普通ノ地代利息賃銀ト全ク同一ナルモノニ非ス即チ普通ノ地代利息賃銀ハ多クハ生産ノ半途又ハ著手前ニ支拂ハルルモノニシテ企業成敗ノ影響ヲ直接ニ蒙ルコトナキニ反シ總利潤ニ包含セラルル地代利息賃銀ハ生産終了ノ後始メテ企業者ノ取得スル所ニシテ企業失敗スルトキハ純利潤ヲ得サルノミナラス地代利息賃銀タルヘキ部分モ亦蠲食セラレテ皆無ニ歸スルコトアルヘシ純利潤ハ次節ニ於テ之ヲ説明セン。

第二節 純利潤

抑モ人ノ企業ヲ爲スヤ其主タル目的ハ純利潤ヲ得ント欲スルニ在リ若シ夫レ純利潤ヲ得ルノ希望ナクシハ其土地資本勞働ヲ他人ノ使用ニ供シテ普通ノ地代利息賃銀ヲ得ルニ如カサルナリ然レトモ企業ハ必スシモ成功スルモノニ非

ス佛國ノ經濟學者ボーリーリ曰ク十人ノ企業者アリトセハ非常ノ窮境ニ陥リ甚シキハ遂ニ破産スルニ至ル者二三其資産ヲ守リテ失ハサル者又ハ僅ニ之ヲ増殖スル者五六而シテ巨萬ノ富ヲ積ムニ至ル者ハ甚タ稀ニシテ多クモ一二人ニ過キサルナリト而シテ企業中他ニ比シテ多大ノ純利潤ヲ得ル者アル所以ハ何ゾヤ左ニ主タル原因ヲ述ヘン。

第一 企業者ノ才能 同種ノ企業ヲ行フニ當リ之カ經營ニ要スル才能ハ略ホ相等シキカ故ニ普通ノ利潤ヲ得ント欲セハ普通ノ才能ニシテ足ヒリ然レトモ才能ノ超絶スル者ニ至リテハ或ハ機械ヲ發明シ或ハ企業經營ノ方法ヲ改良シ或ハ廉價ナル原料ヲ買入ルル等一方ニ於テ生産費ノ減少ヲ圖リ他ノ一方ニ於テ或ハ販路ヲ擴張シ或ハ時運ヲ利用スル等賣上金額ノ大ナルヲ致スカ故ニ他ノ同業者ニ比シテ其利潤必ス大ナリト云フ之ヲ喻フレハ豐饒ナル土地カ多大ノ地代ヲ生スルカ如キヲ以テ此原因ヨリ生スル利潤ヲ或ハ才能ニシテト稱スルナリ而シテ此才能ハ或ハ教育ニ因リ或ハ天賦ニ基クテ雖モ多クハ後者ニ屬スルモノトス曩ニ企業ヲ説クニ當リ大企業者ハ經濟社會ノ將帥ナリト言ヒタ

リシカ才能ノ卓越セル企業者ハ實ニ才略絶倫ノ良將ニ努弊タリテ、
 第二、時運、企業ノ成敗ハ時運ニ關スルコト少カラズ幸ニ時運ニ授ケルハ凡
 庸ノ企業者モ巨利ヲ博シ之ニ反スルトキハ非凡ノ企業者モ失敗ヲ免レザルナ
 リ而シテ時運ハ之ヲ豫知スルコト甚タ難ク隨テ時運ノ爲メニ成功シ之ニ依リ
 テ獲得セル利潤ハ猶ホ都會ノ地代カ偶然ノ原因ニ因リテ暴騰セルニ酷似スル
 モノトス

第三、獨占、自由競争ノ行ハルル企業ニシテ利潤ノ多大ナルモノニアラズハ
 忽チ多數ノ同業者ヲ生シ競争ノ結果利潤減少スヘキモ獨占ノ場合ニハ然ラス
 例ヘハ專賣特許ヲ有スル物品ノ價格ハ遙ニ生産費ヲ超ユルモノ多ク隨テ其專
 賣權ノ所有者ハ多大ノ利潤ヲ得ルナリ鐵道ノ如キ所謂自然的獨占業ニシテ全
 然之ヲ私人ノ利己心ニ放任スルトキハ鐵道會社ハ其資金ヲ高メテ以テ利潤ノ
 増加ヲ圖ルヘキナリ又近時特ニ米國ニ流行スル「トラス」ナルモノハ多額ノ利
 潤ヲ獲得スル者少カラス是レ亦運合ノ力ヲ以テ市場ヲ制シ自ラ獨占ノ形勢ヲ
 來スニ因ルモノトス

或ハ利潤ヲ以テ不當ト爲ス者アリト雖モ要スルニ認説タルヲ免レス蓋シ獨占
 コリ生スル利潤ニ付テハ批難スヘキ場合ナキニ非ス例ヘ「トラス」トカ其生産
 品ノ價格ヲ引上ケ鐵道會社カ資金ヲ高ムルカ如キハ一部ノ少數者之ニ依リテ
 利益ヲ得レトモ社會全般ハ損害ヲ被ルモノトス專賣特許ノ場合ハ之ト異ナリ
 縱令專賣權所有者ハ之ニ因リテ巨利ヲ得ルモ社會ヨリ之ヲ奪フニ非サルナリ
 何トナレハ專賣權所有者ハ其發明ニ因リ新規ナル財貨ヲ生産シ若クハ財貨ノ
 生産ニ新方法ヲ用フルニ過キス社會ヲ強制シテ其生産品ヲ買ハシムルモノニ
 非サレハナリ且專賣特許ノ制度ハ發明ヲ獎勵スルモノニシテ一時發明者ノミ
 利益ヲ得ルカ如シト雖モ結局其恩惠ハ社會全般ニ及フモノトス然レトモ專賣
 權ハ永久付與スヘキモノニ非ス相當ノ年限ヲ定メ發明獎勵ノ目的ヲ害セザル
 限リ之ヲ短縮スヘキモノトス企業者カ其才能ニ依リテ獲得スル利潤ニ至リテ
 ハ批難スヘキ點ナク其原因生産費ノ減少ニ在ルトキハ殊ニ然リトス即チ此場
 合ニハ財貨ノ價格ハ増加スルコトナク却テ低落スルモノトス又時運ノ爲メニ
 利潤ヲ生スルコト屢ニ述ヘタルカ如シト雖モ亦時運ノ爲メニ損失ヲ來スコト

アルヲ免レタルナリ之ヲ要スルニ企業者ハ危險ヲ冒シ一切ノ責任ヲ負ヒ以テ
生産ヲ行フモノニシテ結局社會全般ニ利益ヲ與フルモノナルカ故ニ企業者ト
シテ利潤ヲ得ルハ當然ナリトス

第三節 利潤ト他ノ所得トノ關係

雖ニ述ヘタルカ如ク利潤ハ生産物ノ賣上高ヨリ生産ニ要セル諸種ノ費用ヲ控
除セルモノナルカ故ニ此等ノ費用大ナレハ利潤少ク此等ノ費用少ケレハ利潤
大ナルノ理ナリ而シテ地代利息賃銀ハ此等ノ費用ノ大部分ヲ占ムルモノナル
カ故ニ少シク其關係ヲ述ヘン
生産物ノ價格騰貴スルニ當リ企業者カ土地所有者ニ支拂フ地代變更スルコト
ナクハ企業者ノ利潤ハ増加スルモノトス故ニ生産物ノ價格ノ騰貴ニシテ永
績スルトキハ其土地ヲ借ラントスル企業者増加シ競争ノ結果地代モ亦騰貴ス
ルヲ以テ利潤ハ減少シテ従前ノ割合ニ復歸スルノ傾向アルモノトス
次ニ利息トノ關係ヲ觀ルニ例ヘハ一萬圓ノ借入資本ニ對シ年八分ノ利息ヲ支

拂ヒタルニ利率低落シテ年五分ト爲ルニ於テハ即チ一箇年三百圓ノ費用ヲ減
少スル所以ニシテ生産物ノ價格變動スルコトナクハ其金額ハ利潤ト爲ルモ
ノトス之ニ反シテ利率上騰スルト共ニ生産物ノ價格モ亦之ニ應ジテ騰貴スル
コトナクハ利潤ハ減少セサルヲ得サルナリ是ヲ以テ利潤ノ多少ハ資本ニ對
スル需要ヲ増減シテ利率ノ高低ヲ來スト共ニ利率ノ高低ハ又利潤ノ増減ニ影
響ヲ及ヒシ以テ企業ノ伸縮ヲ來スノ力アルモノトス故ニ平日利率ノ低キ國ト
高キ國トヲ比較セハ前者ノ企業者ハ後者ノ企業者ニ對シテ一大便益ヲ占ムル
モノト謂フヘシ
終ニ賃銀トノ關係ヲ觀ルニ數多ク企業ニ於テハ賃銀ハ生産費ノ一大部分ヲ構
成スルモノニシテ企業者ハ成ルヘク其低キヲ欲シ勞動者ハ成ルヘク其高キヲ
望ムカ故ニ利害相異ナリ隨テ軋轢衝突ノ現象ヲ生スルニ至ルナリ而シテ曩ニ
述ヘタルカ如ク賃銀ト勞動費トハ必スシモ同一ナラス企業者ノ利潤カ勞動者
ノ賃銀ト共ニ増加スルコトアルヤ疑ナシト雖モ同一ノ割合ヲ得ルコト甚タ難
シトス

第五編 財貨ノ消費

第一章 消費ノ意義及種類

第一節 消費ノ意義

人ハ物體ノ一分子タモ製造シ能ハサルト共ニ亦一分子タモ之ヲ消滅セシムルヲ得サルナリ故ニ財貨ノ生産カ財貨ヲシテ效用ヲ生セシメ又ハ效用ヲ増加セシムルノ謂ナルカ如ク財貨ノ消費トハ財貨ヲシテ其效用ノ一部若クハ全部ヲ失ハシムルヲ謂フナリ

財貨カ其效用ヲ失フニハ種種ノ原因アリ例ヘハ流行ニ後レタル帽子昨年ノ曆ノ如キハ物質上毫無變更スル所ナクシテ其效用ヲ減損セルナリ是レ蓋シ此等ノ財貨ニ對スル欲望即チ人類ノ思想上ニ變化ヲ生セルニ由ルモノニシテ二三ノ經濟學者ハ之ヲ稱シテ思想上ノ消費ト謂フ然レトモ此ノ如キ原因ヨリ生スル效用ノ減損若クハ滅失ヲ消費ト名クルトキハ物價ノ高低ヲ或ハ生産或ハ消費ト稱セサルヲ得サルニ至ル故ニ主觀的ノ原因ニ因リテ財貨カ效用ヲ失フハ

通常之ヲ消費ト看做ササルナリ

財貨ハ風雨水火等ノ爲メニ其效用ヲ失フコトアリ例ヘハ火災ノ爲メニ家屋ヲ燒失シ洪水ノ爲メニ田畝ヲ荒廢ニ歸セシムルカ如キ是ナリ此ノ如キ原因ニ因リテ財貨ヲシテ其效用ヲ失ハシムルハ一人ノ個人ニ對シ又社會全般ニ對シ純然タル損害タルヲ以テ各種ノ手段方法ニ依リ或ハ之ヲ豫防シ或ハ損害ヲ輕減スルコトヲ圖ラサルヘカラサルナリ風雨水火等ノ爲メニ財貨カ其效用ヲ失フヲ自然的消費ト名クル者アリト雖モ吾人ハ之ヲ消費ノ範圍ニ置カサルナリ

又他ノ財貨ヲ生産スルカ爲メニ一ノ財貨ヲ使用スルヲ名ケテ生産的消費ト謂フ者アリ例ヘハ綿糸ヲ製造スルカ爲メニ棉花ヲ用ヒ紡績器械ヲ運轉スルカ如キ是ナリ棉花ハ化シテ綿糸ト爲ルカ故ニ棉花タルノ效用ヲ失ヒ紡績器械ハ運轉ノ際多少ノ摩損ヲ來スカ故ニ是レ亦絶エズ其效用ノ一部ヲ減スルモノトス若シ失レ消費ナル語ヲ廣義ニ解スルトキハ是レ亦一種ノ消費ナリト雖モ吾人ノ所謂消費ハ之ヲ包含セサルナリ

吾人ノ所謂消費ナルモノハ人カ其欲望ヲ満足スルノ目的ヲ以テ財貨ヲ使用シ

經濟學 財貨ノ消費ノ意義及種類 消費ノ意義

之ヲ爲メニ財貨カ其效用ノ一部若クハ全部ヲ失フコト是ナリ例ハ衣服ヲ著シ米肉ヲ食シ家屋ニ住スルカ如キヲ謂フ而シテ財貨ヲシテ效用ヲ失ハシムルハ決シテ之ヲ冀望スルニ非ス自然ノ法則上已ムヲ得サルニ由ルモノトス故ニ人ノ消費ヲ爲スヤ成ルヘク效用ノ減損ヲ少クシテ以テ其欲望ヲ満足セシコトヲ努ムルナリ

抑モ人ノ孜孜營營トシテ財貨ヲ生産ニ從事スル所以ニモハ何ソヤ他日之ヲ消費ニ供スルカ爲メニ外ナラサルナリ之ヲ換言スレハ人ハ生産スルカ爲メニ生活スルニ非ス生活スルカ爲メニ生産スルナリ故ニ消費ハ經濟的動作ノ目的ニシテ生産交易及ヒ分配ハ畢竟之カ手段通路タルニ過キス消費カ其數量及ヒ種類ニ於テ増加シ其性質ニ於テ進歩スルハ一箇人ノ場合ニ於テモ又一國ノ場合ニ於テモ其繁榮ノ上進ヲ示スモノトス

然レトモ消費モ一定ノ程度ヲ超ユヘカラス若シ夫レ消費ノミ増加シテ生産之ニ伴ハサルトキハ資本タルヘキ財貨ノ減少ヲ來シ總ニ社會ノ發達文化ノ進歩ヲ妨クルニ至ルヘキナリ故ニ消費ヲシテ間斷ナク増加上進セシメント欲セハ

消費ニ多少ノ制限ヲ加ヘサルヘカラス一箇人ニ就テ之ヲ觀レハ一箇年ノ所得ヲ以テ悉ク衣食住等ノ消費ニ供スルトキハ毫モ其資産ヲ増加スルコトヲ得ザレトモ其所得ノ一部ヲ貯蓄シテ資本ト爲ストキハ翌年ハ之カ爲メニ所得増加シ隨テ消費ヲモ上進セシムルコトヲ得ルナリ一國ニ於テモ亦然リ國民貯蓄ノ精神ニ富ミ資本ノ増殖盛ナルニ於テハ全般ノ生産大ニ振興シ隨テ全般ノ消費モ亦上進スヘキナリ是ヲ以テ貯蓄ナルモノハ現在消費スヘキモノヲ消費セスシテ之ヲ將來ニ遺シ之カ報酬トシテ後日一層多額優等ノ消費ヲ爲ス所以ナリ

第二節 一家族ニ於ケル消費ノ種類

人ノ欲望ハ千趣萬狀ニシテ先天的必然ノ欲望ハ自ラ其數ニ限アリト雖モ後天的ニ發生スルモノニ至リテハ文化ノ進歩スルニ隨ヒ漸次増加シテ殆ト底止スル所ナキナリ而シテ現今ノ社會ニ於テ人カ消費ニ供スル財貨ハ多クハ他人ノ生産ニ係ルモノナルカ故ニ之ヲ買入ルルコトヲ要シ隨テ人ノ消費ヲ爲スヤ其數量種類共ニ所得ニ依リテ制限セラルルモノトス即チ一家族カ一箇年間ニ支

出スル經費ノ種目及ヒ其割合ハ所得ノ大小ニ隨ヒ其間ニ差異アルヲ見ルナリ
 歐米諸國ニ於テハ社會階級ヲ代表スヘキ家族殊ニ勞動者ノ家族ニ就テ其所
 得及ヒ經費ノ種目割合ヲ研究シ其結果ノ公ニセラレタルモノ少シトセシ今獨
 逸ニ於ケル數箇ノ實例ヲ擧ケテ參考ニ資セン

經費ノ種目	第一	第二	第三	第四	第五	第六
一箇年ノ平均所得 得千五百五十九 「マルク」ナル手 續職工一家ノ生 計費	一箇年ノ平均所得 得千八十二「マ ルク」ナル位 少シク「農等」ノ工 場職工一家ノ生 計費	一箇年ノ所得千 九百八十五「地 位」ナル位 少シク「家ノ生 計費」	一箇年ノ所得約 三千「マルク」 ナル家族ノ生計 費	一箇年ノ所得約 五千「マルク」 ナル家族ノ生計 費	一箇年ノ所得約 萬八千「マル ク」ノ生計費	富有ナル家族 ノ生計費
總經費ニ對ス ル百分比	同	同	同	同	同	同
食 物	七、四	六、三	五、四	三、九	二、八	一、七
住 居	六、五	七、七	一、九	二、〇	一、〇	一、一
衣服器具等	八、四	七、五	二、〇	二、四	一、〇	一、〇
暖室及ヒ點燈	六、五	七、八	三、六	四、〇	四、四	二、九

留スル物件例ハ「寄託」ニ於テハ單ニ心素ノ附加ニ依リ引渡ヲ爲シ一旦寄託物
 ヲ返付シ更ニ其引渡ヲ受クルヲ要セス (Custodi manu) 又「當山 (Quasi causa) 引
 渡」ニ於ケル第二ノ心素トシテハ一方ヨリハ讓與スルノ意思、他方ヨリハ之ヲ
 得取スルノ意思ヲ要ス此雙方ノ意思ハ「マシシ」ニ「モ」 In jure cessio 其他ノ隨意
 的得取ノ方法ニ於テハ等シク存在スルモ「マシシ」ニ「オ」 In jure cessio ニ於
 テハ當事者間意思合同ノ明白ナル得取者カ高聲ニ市民法ニ從ヒ所有者タルヲ
 宣言シ讓與者カ之ニ服從スルヲ以テ確實ナリトス之ニ反シテ引渡ニ於テハ當
 事者ノ意思右兩方法ノ如ク有形的ニ明カナラズト雖モ其讓與得取ノ意思ハ必
 ス存在セサルヘカラス而シテ引渡ノ單ニ空虚抑留 (Tada detentio) ナルカ或ハ讓
 與ナルカラ區別スルニハ引渡ニ先スル所ノ行為ニシテ正當理由 (Iusta causa) ナル
 モノアリ而シテ引渡ハ正當理由ノ實行タルニ在リ是ヲ以テ之ヲ觀レハ正當理
 由ハ或ハ賣買交換或ハ贈與其他ノ義務タルコトヲ得ヘク若シ其目的物件ノ所
 有者ニシテ物件ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ承諾スルトキハ現存ノ所有主ト將
 來ノ所有主トノ間ニ其所有權ヲ移轉ヲ實行セシムヘキ法律上ノ關係ヲ生シ又

所有權ノ移轉ニシテ實行シタルトキハ其理由ト爲ルモノナリ之ヲ約言スルハ羅馬法ニ於テハ近世法律ニ異ナリ所有權ノ移轉ハ單ニ契約ニ因リテ成立セズ引渡ニ因リテ始メテ成就スルモノナリ

第五節

時效 Usucapio et praescriptio longi temporis

(A) 時效 (Usucapio)

時效トハ usa capere 即チ使用ニ因リ得取スルノ義ニシテ既ニ十二銅版法ノ時代ヨリ應用セラレタルモノニシテ一定ノ年月間一定ノ條件ニ從ヒテ爲シタル占有ニ因リ所有權ヲ得取スルノ方法ナリ既ニ吾人ノ知ル如ク Romanorum ニシテ單純ナル引渡ヲ以テハ其所有權ヲ移スコト能ハス市民法ニ於テハ之ヲ認メスシテ唯法官ハ之ヲ以テ物件ヲ資産中ノモノトシ In bonis habere 保護スルノミナルカ若シ此方法ニ依リ讓與サレタル物件ノ時效ノ規則ニ從ヒ占有セラレルトキハ市民法ニ於テ遂ニ其所有權ヲ得取スルモノトス又正當理由 (Justa causa) 及ヒ善意 (Bona fides) ヲ以テ物件ノ讓與ヲ受ケタルトキ讓與者ニシテ眞ノ所有者ニ非

ナリシ時ニ於テ讓受者ハ直チニ所有主ト爲ルコト能ハサルヤ明カナリ何トナレハ何人ト雖モ己ノ所有セザルモノヲ人ニ與フルコト能ハサルハナリ然レトモ一定ノ時間占有ノ後時效ヲ以テ所有權ヲ得取ス第一ノ場合ニ於テハ時效ハ儀式的ノ所有權ノ移轉方法カ必要トスル煩苦ヲ避クルヲ得セシメ市民法ノ過嚴ナル原則ヲ補正スルコトヲ得セシム然レトモ第二ノ場合ニ於テハ較ヤ之ニ異ナリ眞ノ所有主ハ不知ノ間ニ其權利ヲ侵害セラレルヲ以テ時效ハ盜奪ノ具ト爲リ其存在スル理由ヲ辯明スルコト難キカ如キノ外觀アレトモ此第二ノ場合ノミハ「ジュヌチニアン」ノ法律上ニ存シ又近世ノ法律皆之ヲ採取シ法律上最重要ナル得取方法ノ一トシテ崇信セラレルハ他ニ理由ノ存スレハナリ蓋シ上説セル如ク一ノ所有主ニシテ不知ノ間ニ物件ノ占有ヲ喪失シテナカラ必要ナル時間内ニ之ヲ請求セザルハ異常ノ形勢ノ之ヲ幫助スルニ非サレハ見ルヘカラザル稀有ノ例ニシテ而モ之ニ因リ其所有ヲ喪失スルハ時效ヲ中斷スヘキ時期内ニ於テ之カ手段ト爲ラス遂ニ時效ヲ完成セシムル過怠ノ責ハ自ら之ヲ負ハサルヘカラス且チ此ノ如キ所有主ニシテ正當ノ方法ヲ以テ占有ヲ得外觀所有主

トシテ十分繼續セル年月ノ間之ヲ享有シタル者ニ向テ永劫ノ間得取ヲ請求キ
 シムルハ公正ナル理論ノ容ナル所ナリ若シ然ラストセンカ占有權ハ平穩ニ成
 立スルコト能ハス常久訴訟問題ト爲リ社會ノ平和ヲ擾亂セシ加之時效ハ又眞
 正ノ所有者ヲシテ其權利ヲ證明スルニ必要ナル證據ヲ得易カラスシム何トナレ
 ハ既往ニ遡リ一ノ所有者ノ正確ナル權利ヲ有シタルノ證據ヲ歷舉スルノ勞ヲ
 省キ正當理由ニ因リテ物件ヲ得取シ一定時日間之ヲ占有セシコトノ證據ヲ以
 テ所有權ヲ確定ス故ニ時効カ所有權ノ證據トシテ便益ヲ與フルコト恰モ上文
 陳述セルル占有ニ於ケルト同一ノ趣アリ

上說セル第二ノ場合即チ讓與者ノ所有主ニ非サリシトキニ於テ時効ノ適用ヲ
 得ルニハ(一)正當理由(Justa causa)ヲ以テ占有ヲ得タルコト(二)讓受者ハ善意(Bona
 fides)ナリシコト(三)一定時日間占有ノ繼續(四)物件ノ時効ヲ受クヘキコトノ四箇
 ノ條件ヲ必要トス

(一) 正當理由(Justa causa) 正當理由トハ物件ノ有形的ナル交付以外ノ事故ニ
 シテ占有ノ握取ヲ辯明スルモノニシテ之ニ先スル所ノ法律行為ナリ此法律行

爲トハ賣買贈與嫁資約定遺贈判決等ニシテ其他所有權得取ノ意ヲ包含スルモ
 ノニシテ引渡ニ於ケルト其趣ヲ同シスルハ時効ニ於テハ必ス先ツ物件ヲ交
 付シタルコトヲ想像セシメ若シ其間或障礙ナクシテハ所有權ハ直チニ移歸シタ
 ルモノナレハナリ是ヲ以テ使用貸借寄託貸借ノ如キ所有權移轉ノ意ヲ含マ
 ナルモノニ於テハ正當理由ヲ成スコト能ハス

(二) 善意(Bona fides) 善意トハ誤謬ニシテ得取者カ自ラ所有主ト爲ルコトヲ得
 ルノ條件ニ於テ物件ヲ得取シタルト思惟シタル迷誤ノ信用ニ在リ此誤信ハ讓
 與者ノ物件所有主タラザリシニ所有主タリト信シ又ハ其讓與ノ能力ナカリシ
 ニ之アリト信シタルニ因ルモノニシテ眞正ナル情實ノ不知ニ在リ而シテ此不
 知ノ情實ハ必ス事實上ノ問題ニシテ法律上ノ問題ニ涉ルヘカラス又善意ハ必
 ス讓受者カ占有ヲ受ケシ當時ニ存在セタルヘカラス然レトモ其以外ノ時ニ存
 在スルコトヲ望マス是ヲ以テ讓受者カ占有以前物件ノ讓與者ヨリ他ニ屬セシ
 ヲ知リシモ占有時ニ於テ其讓與者カ其所有權ヲ得タルモノト信シ或ハ占有後
 讓與者ノ無能力者タリシヲ發見スルモ時効ノ經過ニ故障ヲ生スルコトナシ

善意ハ證明セラレルノ必要ナク常ニ之ヲ推測スルモノナリ故ニ攻擊者ニシテ占有者ノ時效ヲ利スルコト能ハサルヲ主張センニハ必ス其惡意ナリシ證據ヲ提出セサルヘカラス之ニ反シテ正當理由ハ占有者其證據ヲ呈出セサルヘカラス

(三) 一定時日間占有ノ繼續 占有ノ時效ニ違センニハ多少ノ時日間繼續セサルヘカラス此期限ハ十二銅版法ニ從ヘハ動産ニ於テハ一年、不動産ニ於テハ二年ナリトス若シ此期限ノ滿ツルニ先テ讓受者ニシテ占有ヲ失フトキハ時效ノ中斷ヲ生シ占有者ハ既ニ經過セル時日ヨリ生スル利益ヲ失了スルモノニシテ重テ占有ヲ獲得スルモ時效ハ新ニ之ヲ開始スルコトヲ要シ又同時ニ時效ニ必要ナル條件即チ正當理由及ヒ善意ノ存在ヲ要ス羅馬法ニ於テハ時效ノ中斷ニ付キ法學上所謂自然中斷即チ占有ノ喪失ノミ存在シ近世法律ノ所謂民法中斷ナルモノヲ認メナリシヲ以テ訴訟提起ヲ以テ時效ノ經過ヲ中斷スルコト能ハス唯 *litis contestatio* 即チ訴訟形成ノ日以後ヲ以テ時效ノ成就セントキハ裁判官ハ被告ヲシテ時效ニ因リ得タル所有權ヲ原告ニ返戻セシムルノミ

時效ノ經過ハ必ス同一人ニ之ヲ完結スルヲ要セス數人ノ占有ヲ合シ必要ナル期限ニ滿ツルヲ以テ足レリトス唯占有ヲ承繼セシ者カ之ヲ受クルニ當リ一般名義ヲ以テセント各箇名義ヲ以テセントニ從ヒテ差違アルノミ甲ノ場合即チ一般名義ノ相續者又ハ寄贈ヲ受ケタル者ニ在リテハ占有ノ承繼者ハ占有ノ創造者カ身格ヲ繼クヲ以テ時效ノ經過ハ一ニ開始ノ狀態ヲ逐ヒ創造者ニシテ正當理由及ヒ善意ノ條件ヲ充サナリシトキハ承繼者ハ善意ナルニモ關セス時效ニ違スルヲ得ス若シ甲者ニシテ善意ナリシトキハ乙者ハ惡意ナルモ遂ニ時效ヲ得ルモノトス之ヲ名ケテ占有ノ繼續ト謂フ第二ノ場合即チ各箇名義ノ相續者遺贈ヲ受ケシ者買受者等ニ於テハ其人格全ク占有ノ創造者ヨリ獨立分離セルヲ以テ各別二箇ノ占有ヲ爲シ甲者ニシテ善意ナリシモ乙者ニシテ惡意ナルトキハ時效ヲ繼續セス之ニ反シ甲者ハ惡意ナリシモ乙者ニシテ善意ナルトキハ時效ニ違クヘキ占有ヲ始ムルヲ得甲乙兩者共ニ善意ナルトキハ兩者ノ占有ヲ合スルモノニシテ之ヲ占有ノ集合ト名ク

(四) 物件ノ時效ヲ受クヘキコト 時效ハ元來資産ト爲ルヘキ一切ノ物件ニ適

應セラル然レトモ或形勢ニ因リ時効ハ其效力ヲ生スルコト能ハス(1)州縣即チ伊太利以外ノ土地ハ當初ハ市民法ニ因リ時効ヲ認メス(2)盜取シタル動産及ヒ暴力ヲ以テ占領シタル不動産ハ其占有ニ固有ナル瑕疵ニ因リ時効ヲ生セス此等ノ場合ヲ規定スル十二銅版法及ヒ其他ノ法律ハ正當理由及ヒ善意ナキ盜賊及ヒ強奪者ニ對シテ制限ヲ設ケタルニ非ス爾後ノ取得者ニ對シテ時効ヲ得セシメサルニ在リテ盜取シタル動産及ヒ強奪シタル土地ニ固著セル瑕疵ハ此等物件ノ一旦所有主ノ手中ニ復歸スルニ非サレハ掃清セラレサルモノトス(3)所有主ノ法律上ノ條件ニ依ルモノニシテ後見人又ハ管財人ヲ附セラレタル幼者ノ財産ハ本來讓與スヘカラサルモノニシテ隨テ時効ニ因リ得取セラルルコトナシ

(B) 長期時効 *Prescriptio longi temporis*

市民法ノ時効(Duectio)ハ市民法ノ所有權ヲ授與スルモノニシテ隨テ不動産ノ一種重要ナル州縣土地ニ適用スルヲ得ス又商事權ナキ非公民ニ利用セシムルヲ得ス隨テ其範圍ハ狹隘ナリシカブレドール法官ハ長期時効ノ制ヲ創設シ其缺點ヲ補充シ正當理由善意ヲ以テ一定年間州縣土地ヲ占有シタル者及ヒ外國人ニシテ動産伊太利土地及ヒ州縣土地ヲ同一條件ニ從ヒ占有シタル者ヲ保護セリ其條件效用ハ全ク時効ニ等シキモ唯年限ハ遙ニ長クシテ動産不動産ヲ分タス占有者及ヒ所有主ニシテ同州ニ住居スルドキハ十年トシ各別州ニ住居スルトキハ二十年ト爲シタリ

長期時効ニ在リテハ *Proscriptio* ナル字ヲ用ヒタルハ訴訟方法ヨリ起因セシモノニシテ羅馬ノ法官ハ訴訟ヲ以テ裁判官ニ付スルノ前其要旨ヲ撮取シ之ヲ方式ナク *Formula* 紙上ニ列記セルカ長期時効ハ一ハ抗辯手段ニシテ之ヲ方式ノ頭首ニ記入セタルヘカテナル規則ナリキ故ニ *Proscriptio* ナル字ハ時効ノ意味ニ非ス *Proscriptio* 前ト云フ義ニシテ *Proscriptio* トハ記書スルノ義ナルモ法學上採用セラレテ時効ヲ指スニ終リタリ

法官ノ長期時效ヲ創設セシハ市民法ヲ變更スルノ目的ニ非スシテ市民法ノ不
完全ナル點ヲ補充スルニ在リ是ヲ以テ兩者共ニ存立シテ併用セラレレカ年代
ヲ經ルニ隨ヒ兩者ヲ區別シタル理由漸時消滅シジュヌチニアン帝ハ全ク之ヲ合
併シテ一ト爲シタリ唯時効ノ期限ヲ變シ動産ニ於テハ三年トシ不動産ニ於テ
ハ十年又ハ二十年ト爲シタリ

(C) 最長期時効 (Prescriptio longissimi temporis)

最長期時効ハ「テオドシム」(Theodosius)二世ノ勅令ニ依リ立テタルモノニシテ訴權
ハ物上又ハ人上ナルヲ問ハヌ三十年後ヲ以テ消滅スルコトヲ決メリ故ニ正當
理由善意ナキ者即チ盜賊ト雖モ三十年ヲ經過セシ後ニハ所有者ノ物權復取ノ
請求ヲ排斥スルコトヲ得然レトモ此等ノ者ハ所有權ヲ得取スルニ非ス單ニ物
件ヲ返付スルノ義務ヨリ免除サレタルモノナリシカ故ニ若シ之ヲ讓與スルト
キハ得取者ハ更ニ時効ヲ得ルヲ要シタリ
耶蘇教ノ寺院及ヒ其他宗教上ノ建設物ニ屬スル財産ハ四十年ノ占有ニ非ナレ
ハ同一ノ利益ヲ得ルコト能ハナリキ「ジュステニア」ハ更ニ特別ノ制ヲ立テ占有

ヲ取リシトキ正當理由ナキモ善意ナリシ者ハ三十年又ハ四十年ノ後ニ於テ所
有權ヲ得取スルモノト爲シタリ

第六節 Adjudicatio (配分宣告)

配分宣告ハ共有物分配ノ訴訟又ハ隣接セル土地ノ境界分畫訴訟ニ於テ見ル所
ニシテ訴訟ニ於テハ裁判官ハ分配言渡ヲ爲スノ威權ヲ有シ其信スル所ニ從
ヒ當座者ノ一方ニ所有權ヲ歸スルノ權利ヲ有セリ
ハ全體ニ於テ絕對除外ノ權利ナク物件ヲ處分シ或ハ所有主タル行爲ヲ施スニ
ハ共有者全數ノ承諾ヲ經サルヘカラサルヲ以テ隨テ容易ニ意見ノ衝突ヲ起シ
紛争ノ起因ト爲ルモノナリ而シテ此ノ如キ狀態ヲ解釋セシト欲セハ物件ノ分
配ヲ爲ササルヘカラス若シ物件ニシテ均等ニ分タルヘキトキハ共有者ハ各自
其一部ヲ取ルモ若シ物件ノ狀態分割ニ不良ナルトキハ其全部ヲ以テ一人ニ歸
シ他ノ共有者ハ金銭ヲ以テ賠償セラルルヲ得ヘシ然レトモ共有者ニシテ分配

上和協スルコト能ハサルトキハ常ニ訴訟ニ依頼スルヲ得ルモノナリ此場合ニ於テハ共有物分配訴訟ニ當レル裁判官ハ不分ノ狀態ヲ終局セシムルヲ任トシ上說セル如ク物件ノ性質形狀ニ從ヒ或ハ之ヲ共有者中ニ均分シ或ハ其全部ヲ舉ケテ一人ニ歸シ他ヲ賠償セシムルノ權アリ然ルトキハ分配言渡ハ共有者中ノ一人カ物權上ニ有セシ權利ヲ變セヌ却テ他ノ共有者カ有セシ所ヲ以テ之ヲ完全ナラシム

境界分畫ノ訴訟ニ於テハ隣接セル兩土地ノ間ニ存セル舊區域ヲ明瞭ナラシムルニ在リ分配言渡ノ生スヘキナキカ如クナレトモ時トシテ舊境界ノ判明スヘカラサルコトアリ又兩地ノ所有主ニ於テ新ニ之ヲ設定スルノ便利ナルコトアリ然ルトキハ裁判官ハ分配言渡ニ依リ土地ノ一部ヲ當事者一方ニ歸シ他ヲ賠償セシムルコトアリタリ

第七節 法律 (Rege)

羅馬ノ學者ハ或所有權得取ヲ以テ其基礎ヲ法律又ハ習慣ニ取レルモノト爲シ

別ニ之ヲ歷舉スルモ其内甲ハ當事者ノ意思ヲ推測セシメ隨テ隨意的ナルモノナリ乙ハ之ニ反シ不隨意的ナルモノトス例ハ甲種ニ於テ直接遺贈 *Sci Per hinc dationem* ヲ列シ乙種ニ埋藏財寶善意占有者ノ果實得取ヲ列スル如シ直接遺贈ニ關シテハ後編ニ之ヲ讓リ埋藏財寶ハ既ニ上文ニ之ヲ述ヘタルヲ以テ今單ニ第三ノ得取ニ付テ一言セシ

元來一物ヨリ生スル所ノモノハ其果實又ハ生産物ナルヲ分タヌ物ニ附隨シテ所有主ニ屬シ物ヨリ分離セラレル後ニ非サレハ獨立シタル所有權ノ目的ト爲ルコトナシ然レトモ又例外トシテ果實ノ所有主以外ニ屬スルコトアリ例ハハ收實權ニ於ケル如ク又小作者ニ於ケル如シ其他此類ハ善意ノ占有主ニ於テ見ル所ニシテ若シ占有者ニシテ果實ノ土地ヨリ分離セラレタルトキハ其何人ノ行為タルニ關セヌ唯當時占有ハ尙ホ善意ナリシノミヲ以テ其所有ヲ得ルモノトス

羅馬法ノ條文ハ果實ヲ以テ占有者ニ歸スルノ理ヲ説明スルニ善意ノ占有者ハ真正ノ所有主タル地位ニ在ルヲ以テセルモ之ニ加フルニ果實ハ通常費消セラ

ルノ性質ヲ有スルヲ以テ占有者ハ之ヲ收ムルニ隨ヒテ消費シ一旦所有主ノ請求ニ應ジ盡ク之ヲ返還セサルヘカラサルモノトセハ時トシテ所有主カ請求怠慢ナリシ爲メ占有主ハ非常ノ損害ヲ受クヘシトノ觀念ヨリ來リタルモノナリ故ニ羅馬ノ末年此觀念ヨリ生スル結果トシテ較ヤ從前ノ規則ヲ變シ所有主ノ請求スルトキニ仍ホ占有者カ消費セシテ保存セシ果實ハ之ヲ返還セサルヘカラスト決定シタリ

第八節 附隨 (Accessio)

附隨ハ各別ノ所有主ニ屬スル二箇ノ物件カ所有主ノ意思ナクシテ多少緊密ニ接續サレハ附隨トシテ他ノ主タル物ノ所有主ニ歸スルモノナリ故ニ附隨シタル物件ハ其獨立シタル性質ヲ失ヒ他ノ主タル物件中ニ吸收セラレ其價值ヲ增加シ之カ所有主ハ復タ其返還ヲ請求スルコト能ハス唯主タル物件ノ所有主ヨリ不當利得ヲ賠償セシムルノミ羅馬ニ於テハ附隨ヲ以テ單ニ所有權ニ既存セル境界外ニ擴張サレタルモノトシ所有權得取ノ方法ノ種類中ニ算セザリシ

カ後世羅馬法ノ解釋者ハ之ヲ以テ特別ナル得取ノ方法ト看做シタリ
附隨ハ二箇ノ不動產又ハ二箇ノ動產或ハ一ノ不動產ト一ノ動產トノ間ニ生スルヲ得ヘシ
第一ノ場合 二箇ノ不動產ノ間ニ於ケル場合ハ(1)河川ノ沿岸ノ土地カ土城ノ堆積ニ因リ増加シタルトキ(2)河川中ニ島嶼ノ生シタルトキハ兩岸土地所有者ノ河身中線以內ニ在ル部分ヲ得(3)河川ノ注流ニ變更ヲ來シタルトキハ舊流床ノ乾燥シタル部分ハ兩岸土地ノ所有者ニ屬ス
第二ノ場合 二箇ノ動產ノ間ニ於ケル附隨ハ(1)車ニ加ヘタル輪銀製ノ肖像ニ附加シタル銀ノ手臂ノ如キ重ナル物品ノ所有主ニ屬ス額板ノ上ニ描キタル繪畫ニ於テハ異議アリタルカ竟ニ繪畫ヲ以テ主ト爲シタリ此等ノ場合ハ之ヲ附加(Affonctio)ト名ク(2)二種同様ナル流動體ノ混同(Confusio)サレタルトキハ共有ト爲リ和解又ハ訴訟ニ依リ分配スルヲ得(3)乾燥物例ニハ麥音群ノ混合(Commixtio)ニ於テ各所有主ハ原物ヲ請求スルヲ得羊ニ於テ其一二之ヲ認ムルヲ得ヘキモ麥ニ於テハ之ヲ爲スヘカラズ故ニ裁判官ハ其鑑定スル所ニ從ヒ各所有主ニ

分配スルコトヲ得(4)他人ノ原料ヲ用ヒテ新ナル物品ヲ製作シタルトキ Specific-
 2160.ニ於テ其原料所有者或ハ手工ヲ施シタル者ノ孰レニ屬スヘキヤハ竊一定
 セスナヒニアン派ハ此原料所有主ニプロキエリアン派ノ學者ハ手工者ニ歸スヘ
 キヲ主張セルカ「ジュステニアン」ハ更ニ第三ノ意見ヲ採リ物品ニシテ原形ニ復ス
 ヘカラサルモノ例ヘハ葡萄酒ヲ造リタルトキノ如キニ於テハ之ヲ手工
 者ニ與ヘ之ニ反シ金銀ヲ以テ美術品ヲ作リタル如キハ鑄解シテ原形ニ復スヘ
 キトキハ原料所有主ニ歸シタリ此兩時ニ於テ原料所有者又ハ手工者ノ交互賠
 償ヲ拂フヘキヤ明カナリ唯手工者ニ於テハ其之ヲ得ンニハ其善意ナリシヲ必
 要トス中流以自ニ首ニ據ル者ハ其善意ニ依リテ其賠償ノ額ヲ減スルコトヲ得
 第三ノ場合即チ不動産ト動産トノ附隨ニ於テ(1)他人ノ材料ヲ以テ自己ノ土
 地ニ建設シタルトキハ材料ノ所有主ハ之ヲ請求スルコト能ハス單ニ賠償ヲ得
 ルノミ若シ建築者ノ材料ヲ竊取シタルトキハ其價ノ二倍ヲ拂ハサルヘカラス
 然レトモ家屋ノ破壊シタルトキハ材料所有主ハ之ヲ請求スルコトヲ得(2)自己
 ノ材料ヲ以テ他人ノ地上ニ建築シタルトキハ家屋ハ土地所有者ニ屬シ建築者

ニシテ善意大失シテヤハ損害ヲ請求スルコト得若シ惡意大失トキハ法律上其行
 爲ヲ以テ贈與ト爲シタルモノト看做シ賠償ヲ許サス唯裁判時代ハ未ニ及ビテ
 家屋ノ破壊ナレタルトキハ贈與ハ意思存在セカラシメドテ證明シテ材料ヲ復
 取シ或ハ土地ニシテ毫モ破壊ヲ被ラサル限キハ之ヲ除去スルコトヲ許シタリ
 (3)他人ノ地上ニ草樹木ヲ植メ又ハ穀物ヲ播種シタルドキハ其根底ヲ生シタル
 以後之ヲ復取スルヲ得ス唯善意ナリシトキハ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルノミ
 附節 所有權ノ消滅
 本來所有權ハ永存スベキ性質ヲ有スルヲ以テ所謂其消滅ハ寧ロ移歸ヤシテ所
 有權取得ノ數種ノ方法ハ又同時ニ其消滅ノ原因タリ然レトモ又時トシテ純粹
 ナル所有權ノ消滅アリ例ヘハ有形上物件ノ破壊家屋ノ燒失動物ノ死亡ノ如ク
 或ハ法律上ノ破壞ニシテ物件カ面事外ニ置カレタルトキ例ヘハ奴隸ノ解放セ
 ラレ物件ノ神ニ供セラレタルモノトキ如キ或ハ人ヲ擧有テ物件ノ自體狀態ニ
 復歸セシメタル例ヘハ飼養セル禽獸ノ飛逃セラルトキノ如キ

羅馬法 物賣屋ヲ成スヘキ權利 所有權取得ノ方法 附節
 一九七

羅馬法ハ所有權ニ永及チテテハ觀念上推シテ之ヲ種端ニ及ホシ所有權讓與
ノ際當テ一定時期後讓與者ニ當然ニ物件ノ所有ヲ恢復スルノ條件ヲ附セ
ル讓與ヲ以テ所有權ノ性質ニ反スルモノトシ此ノ如キ讓與ヲ無效トシテテ
テハ前記ノ如ク當テテハ一併テ土地ノ所有權ニ歸スルモノトシテテハ
第四節 地役 (Servitudes)
茲ニ所謂地役トハ他人ノ所有スル土地ノ上ニ享有スル權利ニシテ羅馬法ハ風
ニ之ヲ認メ其或土地ノ利益ヲ目的トスルカ又ハ或人ノ利益ヲ目的トスルカニ
從ヒ之ヲ別テテ土地地役 (Servitus praediorum) 及ヒ對人地役 (Servitus personarum)
ト二種トセリ

此兩種ノ地役ハ判然タル差別アルニ拘ハラヌ又共通ナル同一ノ性質ヲ有ス即
チ(一)羅馬法ノ本文ハ之ヲ指シテ Juris ナル文字ヲ以テシ無體物ト看做ス(二)地役
ハ物權 Juris in re 債權ニ異ナリ直接ニ物上ニ負擔シ何人ヲモ拘束セヌ(三)
地役ハ他人ノ有スル所有權ノ分裂 Juris in re alieni 地役ノ享有者ト地役ニ
服スル土地ノ所有者トノ間ニ一權利ヲ配分シタルモノナリ

第一節 土地地役及ハ地役權 (Servitus praediorum)

地役ノ性質

土地地役或ハ單ニ地役ニ於テハ必ス二箇ノ土地ノ存在ヲ想像セシメ甲ヲ以テ
主ト爲シ乙ヲ以テ從ト爲ス主タル土地ハ地役ニ據リテ從タル土地ヨリ取ル所
ノ利益ニ因リ其價值ヲ増加シ從タル土地ハ之ニ伴ヒテ損害ヲ受クルモ兩土地
接隣ノ關係ヨリ已ムヘカラサルノ結果ナリトス
地役ニハ永久理由 (Causa perpetua) 要シ兩土地ヲ關係即チ土地カ從地ヨリ得テ
ル利益ハ永久繼續スヘキ性質ナラサルヘカラ故ニ汲水地役ニ在リテハ泉水
ノ湧出スル地上ニ於テシ之ヲ貯水池ヲ有スル地上ニ設定スルヲ得然レトモ
此永久理由トハ大體ニ於テ之ヲ解釋シ必スシモ地役ノ因リテ生スル物件ノ狀
態カ未來永劫ニ無盡ナラサルヘカラスト謂フニ非ヌ唯其確定スヘカラサル年
月間延長スヘキヲ以テ足レリトス例ヘハ砂石採取ノ地役ニ於テ其一日盡タル
ニ至ルヤ明カナルモ果シテ其何ノ日ニ終ルヤ知ルヘカラサル如ク

地役ニ於テハ從タル土地ヨリ收ムル所ノ利益ハ必ズ主タル土地ヲ爲メナラザルヘカラス故ニ此利益ニシテ單ニ人ヲ利シ土地ヲ一利シテ所オキカ又ハ利スヘキ土地ノ存在セザルトキハ地役ハ成立スルモノト能ハズ又負擔ニシテ單ニ人ニ屬シ土地ニ屬セザルトキモ亦然リ蓋シテ地役ノ因ニ主タル土地ノ利益ニ從タル土地カ得ル所ノ利益ハ必ズ主タル土地ノ爲メニ必要ナラザルヘカラス是ヲ以テ兩土地ノ地形上地役ノ實行ヲ妨ケル所ノ障害大キヲ要ス本來地役ハ兩土地ノ隣接ヨリ生スル從隸ニ外ナラズト雖モ必ズ兩土地ハ互ニ相密接スルヲ要セス

地役ノ種類 其附屬マシテ附屬タル土地ハ主タル土地ニ對シテ附屬マシテ兩土地羅馬人ハ地役ヲ分チテ二種ト爲シタリ甲ヲ田舍地役 *Servitutes praedictorum rusticarum* 乙ヲ市街地役 *Servitutes praedictorum urbanorum* ト爲シ甲ハ賣買式ヲ受ケキ物タリ乙ハ賣買式ヲ受ケサル物タリ地役ノ田舍タルカ又ハ市街タルカハ何ノ徵候ヲ以テ之ヲ別ツカノ問題ニ對シテハ議論數般ニ分レタルモ多數學者ノ探ル所ニ依レハ主タル土地ノ田舍或ハ市街ナルニ依リ地役ノ性質ヲ定ムルモノナリト

ス面シテ茲ニ所謂田舍又ハ市街ナルモノハ特別ノ意味ニシテ田舍土地トハ建築物ナキ土地ヲ指シ市街土地トハ家屋ヲ有スル土地ヲ指スモノナリ故ニ市街地役又ハ田舍地役ハ建築物ノ存シ或ハ存セサル土地ノ地役ナリトス

田舍地役ハ通行 *Via* ノ權水路權 *Aquae ductus* 汲水權 *Aquae laetius* 牧畜權 *Jus pascendi* 家畜ヲ飲フノ權 *Nequus ad equum appulsus* 石灰及ヒ砂石ノ採掘權 *Jus calis cognoscendae, armenae fodendae* 等ナリトス市街地役ハ眺望ノ權 *Jus prospectus* 欄干其他ノモ

ノヲ隣地上ニ凸出セシムル權 *Jus projectionis* 隣接セル家屋又ハ壁ニ柱梁ヲ支シシムル權 *Jus tigni immittendi* 牆上ヨリ流ルル雨水ヲ隣地ニ落テシムル權 *Jus stillicidii vel fluminis recipiendi* 隣地ニ建築セシメ又ハ既ニ存スル建築物ヲ高メテシムルノ權 *Jus altius non tollendi* 等ナリトス

地役ノ設立 羅馬法ニ於テハ地役ノ設立ハ主タル土地ノ利益ニ從テシテ單ニ人ヲ利シ土地ヲ一利シテ所オキカ又ハ利スヘキ土地ノ存在セザルトキハ地役ハ成立スルモノト能ハズ又負擔ニシテ單ニ人ニ屬シ土地ニ屬セザルトキモ亦然リ蓋シテ地役ノ因ニ主タル土地ノ利益ニ從タル土地カ得ル所ノ利益ハ必ズ主タル土地ノ爲メニ必要ナラザルヘカラス是ヲ以テ兩土地ノ地形上地役ノ實行ヲ妨ケル所ノ障害大キヲ要ス本來地役ハ兩土地ノ隣接ヨリ生スル從隸ニ外ナラズト雖モ必ズ兩土地ハ互ニ相密接スルヲ要セス

地役ノ設立 羅馬法ニ於テハ地役ノ設立ハ主タル土地ノ利益ニ從テシテ單ニ人ヲ利シ土地ヲ一利シテ所オキカ又ハ利スヘキ土地ノ存在セザルトキハ地役ハ成立スルモノト能ハズ又負擔ニシテ單ニ人ニ屬シ土地ニ屬セザルトキモ亦然リ蓋シテ地役ノ因ニ主タル土地ノ利益ニ從タル土地カ得ル所ノ利益ハ必ズ主タル土地ノ爲メニ必要ナラザルヘカラス是ヲ以テ兩土地ノ地形上地役ノ實行ヲ妨ケル所ノ障害大キヲ要ス本來地役ハ兩土地ノ隣接ヨリ生スル從隸ニ外ナラズト雖モ必ズ兩土地ハ互ニ相密接スルヲ要セス

羅馬法 物 實態ヲ成スヘキ權利 地役 土地地役又ハ地役權

(一) 市民法ニ從ヘハ地役ハ讓與(Translatio)ニ因リ又ハ所有權ノ減少(Deductio)ニ因リテ之ヲ設定スルコトヲ得タリ地役ノ讓與ハ一ノ土地所有者カ其土地ヨリ享クヘキ或利益ヲ分割シテ之ヲ他人ニ屬スル土地ニ結合スルトキニ生スルモノニシテ地役ハ讓與サレタル物件ノ如ク取得者ノ資産ヲ増スルモノナリ然レトモ地役ハ無體物ニシテ市民法ハ其占有ヲ認メザルヲ以テ先取引渡時効ニ因リテ之ヲ取得スルヲ許サズ「マンシバシオ」ハ唯リ賣買式ヲ受クヘキ物タル田舎地役ニ應用セラレ其他擬訴棄權、分配宣告等ハ田舎市街ノ別ナク地役ヲ得ル方法トシテ用ヒラル

所有權ヨリ地役權ヲ減少シタルトキニ於テハ地役ハ讓與ニ因ルニ非スシテ土地ノ所有主ハ地役ノミヲ減殺シ其所有權ヲ讓與シタルトキニ起ルモノニシテ地役ノ抑留ナリ故ニ「マンシバシオ」ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

(二) 「プレートル」法律ハ地役ヲ以テ占有ノ目的物タルヲ許シ準占有ヲ創立シテヨリ主タル土地ノ所有主ハ從タル土地ノ地役ヲ占有スルコトヲ得ルニ至レリ又地役ノ占有者カ眞ノ所有主ニ非サル者ヨリ之ヲ得タルトキニ一定年限ノ後ニ

ハ長期時効ニ因リ之ヲ得取スルコトヲ得又引渡ニ於テモ地役ヲ以テ準引渡トシ之ヲ設立スルコトヲ許セリ

(三) 「ジュスチニア」ンア時ニ至リテハ「マンシバシオ」及ヒ擬訴棄權ハ消失シ地役ハ其他ノ方法ニ依リ設立セラレ得タリ

地役ノ消失

地役ハ其實行ヲ爲スヘカラサルノ事實又ハ當事者ノ意思ニ因リ消滅ス地役ノ實行スヘカラサル事實トハ主又ハ從タル土地ノ一カ消滅スルトキニ來リ又兩土地ノ合併即チ同一人ノ所有ニ歸スルトキモ亦然リ

當事者ノ意思ニ因ル場合ハ主タル土地ノ所有者カ明白ニ其權利ヲ拋棄スルヨリ來ル市民法ニ於テ其結果ヲ生セシムルニハ擬訴棄權ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要シタリ又一定ノ年限間地役ヲ利用セザルトキハ主タル土地所有主カ地役ヲ拋棄シタルモノト爲スモ此推測ハ十分永キ時日ノ間地役ヲ利用セザルヲ要シ教科時代ニ於テ二十年ト爲シタル然レトモ市街地役ニ於テハ唯リ其不用ノミナラ

又向ホ其實行ニ反スルキ障礙ヲ要ス例ニハ眺望地役ニ於テ隣地上ニテ之ヲ妨グ
 ンキ建物ヲ建設シタルカ如キ是ナリ而シテ此障礙物ハ從タル土地ノ所有者或
 其其他ノ第三者カ之ヲ爲シタルト問ハサルモノトシ市街又ハ田舎地役ニ從ヒ
 此差異アルハ市街地役ハ繼續的ニシテ田舎地役ハ間斷的ナルニ由リ換言スレ
 市街地役ハ常久使用セラレツツアルモノト思考セラレ田舎地役ハ其使役ノ
 際ノ利用セラレ其他ノ時間ニ於テハ中斷スルヲ以ナリ其間斷的ニ使役スル
 事ハ合符同一人ノ酒飲ニ關スルモノト亦然リ

第二節 對人地役 (Services Personarum) 用役權使用權(住居權)

此種ノ地役ハ前節ニ說明シタル地役ニ等シク物權ナルモ殊ニ之ニ對人地役耳
 eribus personarum)ナル名稱ヲ與フルハ其一定シタル人ノ爲メニ設立セラレタル
 ヲ以テナリ所謂地役ニ於テハ其數多ク種類存在スルモ對人地役ニ於テハ僅ニ
 用益權(Usus fructus)使用權(Usus)住居權(Habitatio)奴隸又ハ家畜ノ使用權(Operae servo-
 rum animalia)ナル四種ニ過キス就中用益權ハ所有權ノ元素タル收益使用ノ兩權
 ヲ兼テタルモノニシテ住居權奴隸又ハ家畜使役權其一部ニ過キサルヲ以テ

一 羅馬法 卷八 雜 報

○所有ノ名義ト共有者ノ權利ニ數人共有ノ不動產ヲ其一人ノ所有名義ニ於
 テ登記セル場合ニ於テ各共有者ハ各自其名義ヲ變更セシムルノ權利ヲ有スル
 カ換言スレハ共有者全員ノ同意スルニ非テレハ其名義ヲ變更スヘカラザル明
 約アルニ非サル以上ハ全員ノ委託ニ因リ一人ノ所有名義ト爲シタル場合ニ於
 テモ各共有者ハ簡便ニ名義變更ヲ請求スルコトヲ得ヘキカ又其共有物ノ保管
 又ハ管理ヲ其一人ニ爲テシタルトキモ亦各共有者自由ニ其保管又ハ管理ヲ
 解除スルヲ得ルカ大審院ハ曰ク數人ニテ共有スル物ヲ協議上其中一人ノ所有
 名義ト爲シタルトキ各共有者ハ自己ノ持分ニ關スル部分ヲ其一人ノ名義ト爲
 スコトヲ約諾シタルモ外テラザルモノトシ何トナレハ各共有者ハ他人ノ持分
 ニ對シテハ權利ナキカ故ニ之ヲ他人ノ名義ト爲スコトヲ約スルカ如キ權能ヲ
 有セザルハナリ依テ共有者全員ヲ承諾アルニ非テレハ名義ヲ變更ヲ爲サザル
 特約アルトキハ格別然ラザル以上ハ各共有者ハ他ノ共有者ノ意思如何ニ拘ル

名義者ニ對シテ孰專有メ名義ヲ解キ之釋共有名義ヲ變更シ其中ニ自己ノ
 名義ヲ表示スル者トモ求テ其モ之ヲ爲メ名義者及ヒ他ノ共有者ノ權利ヲ毫
 モ害スルコトヲテタル故ニ各共有者カ此ノ如キ請求權ヲ有スルニ當然ナリ
 然レトモ共有物其物ノ保管者クモ管理ヲ共有者中ノ一人ニ爲シタルコト
 協議アリタルキハ其契約ノ目的物ハ不可分ナル故ニ各共有者カ他ノ共有
 者ノ意思如何ニ拘ハラズ自由ラ其持分ニ對シ保管者クモ管理セシムルコト
 ノ許サレサルコトハ上告人所論ノ如シ云々(十二號院明治三十七年三月十七日
 事件明治三十七年四月二日) 又其共同ノ管理ニ對シテ
 ○教唆ノ教唆 犯罪者ノ教唆ノ場合ニ入リ(一)第三者ヲシテ犯罪ノ實行
 ヲ爲サシムルコトヲ教唆スルモノニシテ(二)ハ教唆者カ被教唆者ヲシテ實行セ
 シムルノ意ナリシニ拘ハラズ被教唆者カ更ニ第三者ヲシテ實行セシメタル場
 合是ナリ(一)ノ場合ヲ更ニ細別シテ(イ)第一教唆者ノ意思ヲ實行者ニ通スル場合
 (ロ)中間ノ者カ第一教唆者ノ意思ヲ通セスシテ獨立ノ教唆ヲ爲ス場合トノ二
 ト爲ス此等ノ場合ニ於テ其第一ノ教唆者ハ現行刑法上罰スヘキモノナリヤ否

ナニ付キ夙ニ學者間ニ論争セラレタル所ナルカ消極論者ノ主張ノ要點ハ刑法
 第二百五條ニ所謂重罪輕罪トハ第二編以下ニ於テ重罪輕罪ト規定シタル罪行
 ラナルヘカラス蓋シ教唆ハ右ノ罪行ノ原動力ト爲リタルカ故ニ罰スルモノニ
 シテ同條ニ所謂重罪輕罪ト犯サシメタルカ故ニ重罪輕罪ニ處セラレルモノハ
 同條ニ所謂重罪輕罪ト謂フコトヲ得スト云フニ在リ積極論者ハ凡人ヲ教唆
 シテ重罪輕罪ト犯サシメタル者ハ亦重罪輕罪ニ問ハルルコトハ第二百五條ノ規
 定ニ依リテ明カナル所ナルヲ以テ之ヲ知リテテ教唆罪ヲ犯サシメタル者ハ是
 レ取モ直チテ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ其罪ト謂ハサルヘカラ
 スト云フニ在リ大審院ハ此問題ニ積極ノ解決ヲ與ヘテ曰ク刑法第二百五條ニ於
 テ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者亦正犯トスベク乃チ他人ヲシテ或
 重罪輕罪ヲ犯ス決意ヲ生セシメタル者アル場合ニ於テ其教唆ニ繫ル犯罪アルト
 キハ教唆者ハ正犯トシテ處罰セラルヘキ旨ヲ概括的ニ規定シタルヨリ觀察ス
 レハ刑法ノ趣旨ナル被教唆者自ラ指定セラレタル重罪又ハ輕罪ヲ犯ス場合大
 凡ト更ニ他人ヲシテ被教唆罪科ヲ決行セシメタル場合ナルトヲ問ハズ齊テ教

殺者ヲシテ其責ニ任セシムルニ在ルモノト解釋セタルヘカラス蓋シ教唆ニ因
 リテ犯罪ノ決意ヲ生シ敢テ之ヲ實行スル者アル以上ハ教唆者ト被教唆者トノ
 關係ハ直接ナルト將テ間接ナルトヲ論セシ法律上禁遏セントスル犯行發生ノ
 危害ヲ見ル點ニ於テ毫モ異ナル所ナキヲ以テ間接教唆モ刑法第百五條ニ依リ
 テ處罰セラルルニ非サレバ本規定ヲ設ケタル趣意ヲ貫徹スルニ由ナケレハナ
 ヲ故ニ被告長三カ被告竹之助ニ依屬シ其乾兒被告吉太郎及ヒ源太郎ヲシテ被
 害者尼子法洞ノ手前ヲ證書ヲ奪取セシムル教唆ヲ以テ刑法第百五條ニ問擬ス
 ヘキモノト判決シタル點ニ於テ原判決ハ適法ナリト謂ハサルヲ得ス(大審院
 三十六年七月二十六日四月十五日刑部事務司聯合宣言)
 ○敵軍ノ規則ヲ違フ露軍ハ曩ニ我商船ヲ暴沈シ萬國ノ公道タル公海ニ機械水雷
 ヲ敷設シテ爲メ我一等戰艦初瀬號ノ奇禍ト爲リ尤モ此法則ハ未タ確定セ
 ナルカ如シ白旗及ヒ赤十字旗ヲ濫用シ今又得利寺附近ノ戰艦ニ於テ我國旗ヲ
 借用シテ明カニ國際公法違反ヲ敢テセリ是ニ由リテ觀ルモ我邦ハ世界ノ文明
 ノ爲メ速ニ敵國ノ腐敗シ國際公法ノ威力ヲ擁護セサルモカラズナラザレバ

法學志林

●校友學生校外生ニ限リ特價一冊拾錢郵稅壹拾十冊前金郵稅共壹圓

第五十七號 每月一冊十五日發行
 六月十五日 定價一冊拾貳錢
 發行 郵稅 壹圓貳拾錢
 共拾錢

- ◎志林
 - 法人ノ本質ヲ論ス.....法學士 松本 丞治
 - 我國法上ニ於ケル物權契約.....法學士 岡松 參太郎
 - 滿洲地方ニ對シ我軍隊ハ軍隊占領ノ權利ヲ完全ニ行使シ得ルヤ否ヤ.....法學士 秋山 雅之介
 - 片約單獨履行爲ニ就テ(承前).....法學士 杉山 直治郎
 - 國際公法ノ基礎ヲ論シテ戰爭ノ地位ニ及フ.....法學士 秋山 雅之介
 - 露國新手法(一).....法學士 佐 三 吾
 - 無盡講ノ性質及各講員間ノ法律關係.....法學士 横 田 秀 雄
 - 官吏カ將來ノ職務ニ對スル請託.....法學士 谷 野 格
 - 公同徵收ノ性質.....法學士 上 杉 慎 吉
- ◎纂論
 - 大審院新判例三十四件.....法學士 上 杉 慎 吉
 - 露國ノ逆振ニ關シ新判例○市町村民ノ祝賀會費用ノ負擔ニ付テ○有賀氏俘虜救恤協
 會ノ設置ヲ促ス○辯護士會長ノ懲戒訴追○東京辯護士會○新法學博士○外交官及ヒ領
 事官試驗○文官高等試驗委員○判檢事及ヒ辯護士試驗委員○判檢事及ヒ辯護士試驗○
 梅博士ノ判例批評○對スル志方氏ノ駁論ニ就テ○校友茶話會○實業懇話會○明治二
 十四年同期親睦會○校友異動○校友死亡○寄贈書目
- ◎解疑
 - 大審院新判例三十四件.....法學士 上 杉 慎 吉
- ◎判例
 - 大審院新判例三十四件.....法學士 上 杉 慎 吉
- ◎雜報
 - 大審院新判例三十四件.....法學士 上 杉 慎 吉
- ◎記事
 - 大審院新判例三十四件.....法學士 上 杉 慎 吉

發行所

法政大學

特別法講義錄

第十五號 (六月三日發行)

每一回發行
月金十五錢
謝

市制町村制

法學士松浦鎮次郎

現行租稅法論(完)

法學士若槻禮次郎

表紙及七目次 四頁

競賣法

法學士吾孫子勝

著作權法

法學博士水野鍊太郎

公證人規則

法學士山脇貞夫

○戶籍法(完結)法學士島田鐵吉○人事訴訟手續法(完結)法學士松岡義正○特許法(完結)法學士杉本貞治郎

●一號ヨリ缺本ナシ

六月

法政大學

明治三十七年六月十八日印刷
明治三十七年六月廿一日發行
(定價金貳拾錢)

編輯者
東京市牛込區牛込北町十番地
萩原敬之

印刷者
東京市牛込區矢來町三番地
小宮山信好

印刷所
東京市芝區西ノ久保明倉町十一番地
金子活版所

發行所
司法省
東京市麴町區富士見町六丁目十六番地
法政大學
(電話番町百七十四番)

(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可)
每月定價三錢五分
日三十五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行